

# 一般選抜 出題傾向／対策・出題のねらい

## 国 語

### 〈出題傾向〉

#### 〈現代文〉

一八〇〇～三八〇〇字程度の文章が出題されており、二五〇〇字程度の比較的短めの文章が多い。二〇二二年度の出題文は、一作品を除いて評論文だった。出題文のテーマは、言語・教育に関するものが主で、翻訳に関するものなどもあり、一九八〇～二〇二〇年代に書かれた文章が使われている。出題文は論理的な読解力を求める内容だが、難解なものはない。

個々の設問内容に関して、漢字問題は例年必出で、文脈に合致する適切な漢字を問う問題だけでなく、読み取りが出題される場合もあり、いずれの日程においても、五問～八問ほど出題されている。ほとんどの日程では、語句の意味を問う問題も出題され、単語・熟語・慣用表現について問われている。特に難解な語句は問われていないが、誤用されやすい表現が問われることもあり、選択肢の中から正確な意味を選ぶ力が必要である。また、接続語・語句・脱落文を空欄に補充する問題など、本文の文脈、論理を精緻に読み取らせる問題が多く出題された。

さらに、傍線部の意味・内容を問う問題もほとんどの日程で出題されている。また、傍線部における筆者の心情や考えを問う問題や本文との内容合致を問う問題など、本文全体の正確な内容の把握が要求される問題も出題されている。こうした本文全体の把握が必要とされる問題は、設問同士が同内容の対比であったり、一つの設問で問われた筆者の主張が他の設問でさらに発展的に問われたりする場合があり、一つの設問の間違いが他の設問に波及して、得点を大きく落とす可能性があるため、注意したい。

また、二〇二二年度は、単語や語句の抜き出し問題の出題はなかった。文章で解答する記述問題は、二〇二〇年度・二〇二一年度に引き続き、二〇二二年度も出題がなかった。

その他、文学史の問題が二〇二二年度では一日程で出題されている。

#### 〈古文〉

二〇二〇年度は、中古の作品から二題、中世の作品から二題の出題であった。二〇二一年度は、江戸時代の怪談集『百物語』、室町時代の物語集『御伽草子』の『磯崎』、江戸時代の俳人・栗田禎堂の俳文『月夜さうし』、平安時代の長編物語『源氏物語』から出題されており、一日程を除いて受験生にとってあまり馴染みのない作品からの出題であった。

二〇二二年度は、平安時代の長編物語『源氏物語』、江戸時代中期の軍記物語『前々太平記』、江戸時代後期の『亮々草紙』、平安時代末期の成立とされる説話集『唐物語』から出題されており、一日程を除いて受験生にとってあまり馴染みのない作品からの出題であった。

本文量については、二〇二一年度はいずれの日程も七〇〇～一三〇〇字程度であったが、二〇二二年度は、前期A方式(1/29・1/30)が一〇〇～一三〇〇字程度、前期B方式・後期が一六〇～一六〇〇字程度であった。二〇二一年度は三日程で和歌を含む文章から出題されたが、二〇二二年度も同じく三日程で和歌を含む文章から出題された。設問数は、二〇二〇年度・二〇二一年度と大きな違いはなく、八～十一問であった。設問内容は、現代語訳、動作の主語、敬語の種類と敬意の方向、傍線部の内容説明、空欄補充、内容合致などの読解力を測定する設問を中心に、古語の意味、用言・助詞の文法的知識を問う設問もほとんどの日程で出題されている。また、文学史などの基本的な知識を問う設問も出題されている。

総じて、本文と設問のバランスのとれた出題内容であり、バラエティーに富んだ設問構成である。解答するにあたって、余裕が

ある試験時間とは言えないので、時間配分には十分注意したい。

#### 〈学習対策〉

##### 〈現代文〉

左記の傾向分析からうかがえるように、本文の部分的理解を確認する設問だけでなく、本文全体の内容を把握させる問題も出題されるのが本試験の特徴である。出題形式に惑わされず、大学側が受験生に求めている学力は、国語力の基盤である「語彙力」と、それを基にした「読解力」であることを押さえておこう。

まず、漢字問題の出題数が多く、必ず出題されるため、日々の学習の中で漢字の書き取り・読み取りの訓練を行う習慣をつけよう。漢字問題に取り組む中で意味のわからない語句に出会った時に、すぐに意味を調べてその言葉を自分のものにできるように、常に手元に辞書を用意しておこう。漢字を使いこなすことができるようになるためには、単に「書ける・読める」だけでは不十分で、意味を把握しておく必要がある。また、慣用表現についても、文章の中で、意味のわからないものに出会ったら、必ず辞書を引いて正しい意味を確認しておこう。このように、「調べて覚える」学習姿勢を意識的に確立することが大切である。こうして語彙力を身につけておくと、語句の空欄補充問題を解く際に役立つ。

次に、文章の「読解」では、本文中の論理関係を把握するために、接続語・指示語・構文などの文法を理解しておくことが基本となる。標準からやや易しめの問題集や過去問の文章を使って、接続語や指示語によって、文と文、あるいは段落と段落がどのような関係になっているかを意識しながら読む練習をたくさん行おう。こうした学習により、文脈を把握する力がつく。また、問題を解く際、傍線部が本文のどの部分と関連しているのか、あるいは、選択肢のどの部分が本文のどのことに関連しているのかなど、文章と文章の対応関係を常に意識し、それが手がかりにして問題を解いていこう。

##### 〈古文〉

有名でない出典からも出題されることがあるため、古文を正確に読解する力が必要とされる。また、古語・文法の知識や古典常識などをある程度インプットしておかないと、古文の読解は難しい。古文の知識はあらかじめ覚えておく必要があるため、普段の学習が求められる。

二〇二〇年度・二〇二一年度に引き続き、二〇二二年度も和歌に関する設問があった。その対策のため、和歌の読解に不可欠な縁語・枕詞・掛詞などの修辞を、しっかり理解しておこう。また、本文中に引用されている作品や和歌に関連する文学史の問題が出題されることもある。日頃から主要な作品や和歌については、概要を暗記しておくことが望ましい。国語便覧などを手元に置いて活用しよう。

#### ●正確な読解力養成のために

- ①古語の強化…動詞・形容詞などの用言を中心に、何度も反復して学習することが望ましい。特に注意が必要なのは、「現代と意味の異なる語」と「複数の意味を持つ語」の二種類である。現代と意味の異なる語については、辞書の意味を確実に暗記しておくことが必須である。複数の意味を持つ語が出題されるときは、文脈に適した意味を選んで答える力が求められる。辞書の意味を丸暗記するのではなく、語の大意や由来を理解しておき、文脈に応じて判断できるようにしておこう。
- ②文法的知識の定着…助動詞や助詞の意味・用法の識別などは必出なので、こうした問題で失点しないように、しっかり学習をしておきたい。そのために、問題数が少なめの問題集を繰り返して解くなどして、知識を定着させよう。

#### ●記述対策もしておこう

記述式設問の出題は、二〇二二年度にはなかったが、過去には出題されていた。記述式設問が復活しても戸惑わないように、問題集や参考書で、記述式設問に慣れておこう。そのとき、模範解答の着眼点及び解答作成の手順を確認して、実際に解答を書いて

### 〈出題のねらい〉

前期A方式(1/29・1/30)・前期B方式・後期、いずれも国語の基礎学力を試す問題です。

現代文では、漢字問題(文脈に合致する語彙として適切な漢字を問うもの、読み方を問うもの)や、語句問題(文脈に合致する適切な語句を問うもの、意味を問うもの)等、基本的な語彙力を試す問題を多く出題しています。これは、日頃から様々な文章に接し、言葉に関する感覚を磨いているかどうかを重視しているということです。それとともに、これらの問題の多くは、単に語彙についての知識を持っていればできるというわけではなく、それらの語句が置かれている文脈を正確に読み取り、それに即したものを選べるかどうかを試すものであるとも言えます。文脈を正確に把握する力には特に比重を置いていますので、前後の文の関係や、段落相互の関係、呼応している言葉などを、意識的に把握しながら文章を読む癖をつけておくことが肝要です。

現代文・古文を問わず求められる文脈把握力は、大学で学問をするうえでも、日常生活を営む中で他人と会話するうえでも、どのような局面でも必要になる、すべての基礎になる力です。例えば漢字や語彙についての問題も、長文の中に置かれている言葉なのですから、文章全体、あるいはその段落の文脈の中で、よく意味を考える必要があるのだ、という意識を持って取り組んでほしいと思います。

古文でも、古典文法や古文単語、文学史・古典常識などの基礎知識を問う問題を多く出題しています。そうした知識を身につけることは、日本の文化を理解する基盤になります。どの学部を受験するにしても身につけておいてほしい力です。

本学の古文の出題は、入試問題とはいえ、受験生の皆さんが読んだときに、内容的にも興味を引かれるような魅力的な文章の数々を出題しています。ぜひ、多彩な内容の、魅力ある古典の文章を味わってほしいと思うのですが、そのためには、先に記したような基礎的な力が必須であるということに改めて意識してほしいと思います。何事も、楽しむためにはそのためにかけなければならない労力があるということ、そして、労多くして必要な力を擲んだときにこそ、その先に開ける世界があるのだ、ということイメージしながら学習に取り組んでください。受験勉強とは、それそのものが目的ではなく、その先に広がっている豊饒で刺激ある世界に自らが足を踏み入れ、それまでに見たことのない景色を見る、そこに至る切符を手にするためにするものです。

以下、上記のことを少し具体的に説明してみます。

### 前期A方式(1月29日)

㊦の現代文は、第一次世界大戦頃から流行した「モダン語」についての文章です。文脈の把握とともに語彙力を試す設問(問一～問四)の比重が高くなっていますが、特に問三の解答番号㊦・㊧・㊨や問四の㊩などは、正答率が低かったです。例えば㊦であれば直前の「あらゆる」が、㊧であれば次行にある「次々と必要となっていく」が、それぞれ大きなヒントになります。また㊨の場合は、「…として」というふうに文が続くというのもポイントになります。空欄の前後からしっかり情報を収集することと共に、「陸続」はふだんあまり使う言葉ではないだけに、日頃から少し難しいと感じるくらいの文章を多く読み、語彙力を身につけられているかが重要になります。㊩にしても、「座右の書」という言葉を知ってさえいれば、ごく簡単な問題です。「枕元」でも意味は通るのですが、その場合は、「枕元」ではなく「枕頭」という熟語が用いられるのが慣例です。ふだんから文章語としての語彙に習熟していることが重要です。読解問題の中では、問五が最も難易度が高かったかと思えます。問題文冒頭に傍線が引かれていますので、そこだけ見ても答えに辿り着けるはずはありません。1頁から2頁3行目までをよく読めば、筆者がなぜ傍線部1のように言うの

みることが大切である。

最後に、ふだん接する機会が少ないと思われる近世の文学作品も出題されているため、ふれておくとういだろう。

かが説明されています。それなりに長い範囲を見ないと答えが出せない問題もありますから、慌てずに文脈を捉えてから解答を考えるようにしましょう。

㊦の古文は、『源氏物語』『宇治十帖』と呼ばれる部分からの出題です。問一の語句の意味を問う問題では、㊦、㊧の正答率が低かったです。㊦「いとど」は、単に程度が甚だしいことを意味する言葉ではありませんから、「たいへん」を選ぶと正解になりません。ますます、いっそう、さらに、というように、程度の甚だしさが増幅する意味を含んだ「いよいよ」が正解です。㊧の「心もとなき」については、古文では「不安である、気がかりである」という意味だけでなく、「じれったい、待ち遠しい」といった意味で用いられることが多くあります。「例よりも対面心もとなきを」とあることに留意しましょう。「心配である」を選択すると平素から対面することが心配である、というような意味も出てきてしまいますので、それでは違和感があるでしょう。古文単語では現代語では用いられなくなっている意味があることに留意しつつ、周囲の文脈の細々したところにも目配りして解答を選ぶようにしてください。問三の、誰から誰に対する敬意かを問う問題は、会話文(登場人物の発言)中の言葉であるのか、そうでないのか、というところに注意する必要があります。会話文でない場合は、語り手から登場人物に対する敬意を表していると捉えます。問四の乙㊨も正答率が低めでした。ここは推量の意味の助動詞が入るというのはわかると思うのですが、視覚に基づいて判断する「めり」や、眼前に見えない場所で現在生起している物事を推量したり、眼前の事態からその原因・理由を推量したりする「らむ」に対して、ここは直前に「鐘の声かすかに響きて」とありますから、音や声、周囲の気配などから推定する「なり」を入れるのが妥当です。同様に正答率が低かった問五の㊩㊪については、注4の説明文中の「秋」という季節、それから㊩の次行にある「有明の月」が大きな手がかりになります。「有明の月」とは、陰暦十六日以降、夜が明けかけても空に残る月のことを言います。右二つの要素を満たす選択肢は一つしかありません。なお、陰暦では「秋」は七月から九月までを指します。できるだけ多くの古文を読み、こうした現代の感覚とは異なる古典の常識も身につけておくことが肝要です。

### 前期A方式(1月30日)

㊦の現代文は、小説家村上春樹が、『グレート・ギャツビー』という小説を翻訳した際の体験談を綴ったもので、その中から、翻訳というものの難しさが浮かび上がってくる文章です。読解問題は前期A方式(1/29)に比して平易で、正答率も低いものではありませんでした。ただし、前期A方式(1/29)同様、語彙力を試す問題が多くなっており(問一～問四)、このあたりを取りこぼすと点数がのびません。問一Aの「腹蔵(の無い)」のように日常会話では使用しない言葉について正答率が極端に低くなることからわかるように、こういった語彙力は、文章に接することを通して身につけていくしかありませんので、そういう営みを大切にしましょう。また問三では、解答番号㊦、㊧の正答率が低かったのですが、㊦は、その直前にある「客観的な」と並列で並べられる言葉であること、後続の「そんな偉そうなことを言う資格はない」という箇所の傍線部に当てはまること、その両者を満たす言葉を入れる、というふうにして解いていきます。㊧についても同じで、直前の「流れの中で何の不都合もなく」というところ、直後の「一瞬にして理解できてしまう」というところ、このように前後から情報を集めてそれと合致する内容の言葉を選ぶようにすれば難しいことはないはずですよ。

㊦の古文は、『前々太平記』という、奈良時代から平安時代前半期までの出来事を題材とした、江戸時代に著された通俗的な歴史書からの出題です。六歌仙を中心とした、『古今和歌集』に入集し

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

ている著名な歌人たちについての俗説が記されていて、入試問題ながら面白く読んでもらえる文章です。問四以降は極端に正答率が低いものはありませんでした。問一の解答番号㉔の正答率が低めでしたが、「一節ありける」というのは、他と異なって目立つある一点があった、という意味で、③「見どころのある」が正解です。②・④・⑤などは内容を限定しすぎであると言えますが、中でも正答の③よりも選んだ人が多かった④「気骨の備わった」は、自らの信念を決して曲げずに貫き通す強い気概を持った、という意味ですが、それは、問題文に描き出されている「後日の遁れにおのが名を書き替へ」などといった喜撰法師の身の処し方とは一致しないのではないのでしょうか。古典の語句に習熟しておくと共に、やはり古文も文章の内容をよく把握して、それと照らし合わせながら考えることが重要です。問二のA㉑の空欄補充は直前に「極楽の」とありますから、②「西」を選ぶのは簡単であるかと思いきや、意外にも①「東」や④「北」を選んでの方々もかなりの数に上り、解答率が分散する結果となりました。問八の文学史の問題などと共に、こうした古典常識については身につけておいてほしいと思えますが、特に問二は、本学を受験する方々にはもう少し正答してほしいところでした。

### 前期B方式(1月31日)

Iの必答現代文は、言語学者ソシュールによる言語の捉え方について説明したもので、受験生の皆さんには取っつきにくい内容だったかもしれませんが、論旨自体は把握しにくいものではありません。それを証するように正答率は全体的にかなり高かったのですが、その中で、問一の漢字問題E㉕「位相」の正解として⑤「一子相伝」を選択できた人がずいぶん少なかったです。B方式では、IIの選択現代文の(II)に四字熟語を問う語彙問題もありますので、こうした語彙力の強化を図っておってください。また、問三の解答番号㉙も正答率が低かったのですが、これは正答の「支配(物)」という言葉が耳慣れないので、ふだんよく耳にする「副産(物)」や「建造(物)」を深く考えずに選んでしまった人が多かったようです。こういうところ、要注意です。惑わされず文脈をよく読みましょう。前行の「個を規制するものとして働き出す」、直後の「立ち向ってくる」に着目できれば、容易に正解に辿り着けたはずなのです。

IIの選択現代文の(I)【読解問題】は、我々の日常生活とも関わる

人間による色の識別について、ふだん何気なく見過ごしているようなことに気づかせてくれる文章です。こちらは全体通して正答率が高く、あまり迷うような選択肢はなかったようです。正答率が低めだったのは問一漢字問題のE㉕「(正真)正銘」で、③「銘柄」を選ばず①「明快」を選んでしまった人が正答者と同数程度いました。比較的点数のとりやすい問題だったからこそ、こうしたところで差がつきますので、たくさん本を読んで語彙力を高めましょう。

IIIの選択問題古文は、江戸時代の後期の歌人「木下幸文」<sup>たかぶみ</sup>が著した随筆からの出題です。ユーモアをたたえた滋味あふれる文章で、入試問題ながら楽しく読める文章と言えましょう。正答率も全体に高かった中で、問四の(1)解答番号㉗だけが極端に低かったのですが、「さ」の指示内容はいずれも前に示されている俊頼の歌の中の「うつくしよし」を指しており、たしかにそのように聴こうと思えば聴くことができるか、という意味になります。

### 後期(3月8日)

㉑の現代文は、アクティブ・ラーニングとその問題点についての文章です。唯一正答率が低かったのは、問五の解答番号㉙ですが、これは④の「詰め込み」が正解です。「ゆとりの」に続く空欄補充なので、まず「ゆとり教育」の性格が「考える力」をうたったものであることを前頁から把握します。その上で空欄の直前を見て、「これまで以上の学習内容を、単に丸暗記するのではなく意欲をもって活用する」「自分自身を確実に高度化」などといった文言がたたみ掛けられているところから判断します。

㉒の古典は、中国の逸話を仮名文で記した『唐物語』からの出題です。正答率が特に低かったのは問四の主語を問う問題の、解答番号㉔と㉕です。㉔については、問題文第三段落後半の「昔の男よりも、」以下は「荀爽が娘」が主語ですが、第四段落二行目「事柄・気色を見るに」以降は、主語が郭奕に変わっています。㉕については、傍線部の直前に「中有の旅の空までも」とあるのがポイントで、夫婦の浅からぬ契りを覚えている、この人は既に亡くなっていることがわかります(注2の説明文もヒントになります)。傍線部の直後で「我もまた」と「荀爽が娘」と並列で並べられているところからも判断可能です。空欄の前後にある文言に留意しつつ、文脈を丁寧に追うことが肝要です。

次の文章は、一九二〇～三〇年代の流行語「モダン語」について書かれた文章です。これを読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 1、22。

そもそも、「モダン」について説明するために書かれたはずの辞典でさえ、「ともかくそのままだとモダン」といった方が便利な語である。〔世界新語大辞典〕と書いて投げ出すより仕方なかったのである。当時の人々にとっても「ともかく何となくは新しいようなものがある(気がする)」といったような雰囲気や空気をもたらすが、モダンに関連する言葉であった。いつの時代にあっても、そのカチユウにあつては今の時代が次の時代として、いかなる新しさの先駆けとなっていくのか、を予知することは難しい。とはいえ、モダン語を必要とする時代のありように全く触れないまま、モダン語辞典と銘打って編纂することは無責任というところがあったであろうか。いくつかの「モダン語辞典」には、その雰囲気や空気を伝える序文が記されている。

その一つ「モダン流行語辞典」(一九三三年)の「序」は、トウトツに次のように始まる。

つまり、現代は止まる処を知らず、突進するロケットである。物凄い時代が進撃する、ルルルル 音をたてて、突進するロケットの姿で、現代の姿であろう。その時代の進展に従って、我々の生活は、意志から独立して、その様式が発展して行く、特に、ラジオ、テレビジョン、キネマ、飛行機、飛行船等々の、スピード科学によって、我々の生活内容は世界的となつて来た。その表現たる言葉も、秒一秒、新生して、世の中に送り出される。或る言葉はフランス風、或る言葉はロシア風、或る言葉はアメリカ風、a 江戸の名残りの面影をもつた言葉も、多種多様、実に雑然と、従来の字引を引いても出て来そうにもない、所謂モダン語が生れる。新しい言葉を知ることが、新時代精神を知ることである。モダン語を知らずして、新時代を解することは出来ない。所謂時代認識の不足を来す。その意味に於て、本書はあらゆるモダン流行語を、い、して、ここに編輯した。

急激に変化していく時代の動きを、「進撃」や「進展」という言葉で示し、その新時代の精神を示すモダン流行語を知らなければ新時代を理解できない。そのモダン語は外来語だけでなく、江戸時代の面影を残す語に新たな意味内容が付されて新生して行く——という、ここに示されたモダン語認識は、b 雑然としてはいないが、当時のモダン語観を良く伝えているように思われる。

もちろん、モダン語は科学技術用語に限定されていたのではなく、むしろそれは例外的であった。ただ、モダン語という言葉が特に使われる場合には、高速度時代(中略)に入った世界の動向に日々タコウとして変化するための必須語彙という意味合いが強く込められていたようである。

(中略) アメリカのW・リップマンは一九二二年に刊行した『世論Public Opinion』において、c 二ユー・メディア時代の人々は現実的環境と思考によって作られた疑似環境を参照しながら行動するが、そこでは事実を恣意的に選別する固定観念が大きく作用することに注意を促した。

その現実的環境とは異なる疑似環境を生み出すにあたって、重要な役割を果たすのはマス・メディアを通して流される情報であり、流行語である。日本におけるモダン語の流行も、また間違いなく、疑似環境を作り出していた。いや、モダン・ライフを導入しようにも、それ自身が海の彼方にある以上、その生活様式を現実環境に変えるために先ずは疑似環境として受け取るしかなかった。とりわけ、モダン・ライフがそれなりに、d されていく都市部に生活している人以外、メディアを通して情報を得てイメージを育んでいくしかなかった。

そして、都市部に住む人々を含めて、新刊の書籍や新聞雑誌を読むにも、ラジオ放送やレコードなどを聞くにも、そして何よりも日常会話での話題についていくために、日々現れてくる新語・外来語としてのモダン語を理解することが必要となった。視聴覚にかかわる身体感覚の変化——モダンという時代は、マス・メディアを通してそれを人々に迫っていた。

モダンという時代に生きるといことは、人々にとってそれが何かと問いつめる以前に、生活環境の激変に対応して自らの

ライフ・スタイルを変えていくことを迫られるということであった。

(中略) は、として刊行された辞典類もまたそうした欲求に応えるとともに、さらにモダン語を造っては流行させるという循環を生んだ。それでは、なぜ、モダン語辞典が次々と必要となつていったのか。

その重要な契機となつたのは、第一次世界大戦後に世界的なチヨウリユウとなつて日本でも広まっていた社会生活全般におよぶ「改造」や「改善」を要求する声であった。そして、社会の改造や改善にとって不可欠の要諦とみなされたのは、なによりも基本となる「言葉の改造」であった。

そうした時代的要諦を辞典編纂者は、異口同音に次のように読者に訴える。  
①十年前の新語もはや清新の威を失うに至つた。まことに言葉の進化、辞典の進化の急速なるは、吾人をして余りにその懐かしさを嘆せしめずには措かない。しかも、大戦のもたらした世界の改造は、同時に思想の改造であり、言葉の改造でなければならない。現代に属する人は、昨日の人であつてはならない。須らく「今日」の人でなければならぬ。否進んで「明日」の人でなければならぬ。かかる時においてその「明日」の辞典でなければならぬ。に、に備へべき辞典は「昨日」の辞典であつてはならない。須らく「今日」の辞典であり、「明日」の辞典でなければならぬ。(現代語解説) 上巻「序」一九二四年)

(中略) これらを読むと、大戦(戦時)とも呼ばれる第二次世界大戦が、いかに世界的に衝撃を与え、言葉や思想から始まって「新時代」としての「現代」において「いかに生活すべきか」がどれほどまでに喫緊の課題として受けとめられていたかが、セツパクした声として伝わってくるようである。

絶え間なく後ろから背中を押され、何であれ新しいものを求めて、人より半歩でも頭一つでも先に進むように急がされている気がする。言葉と時代と人の営みが緊密に結びつき、は、動いていくという時代が目の前に現れていた。だが、

この昨日より今日、今日より明日に現れるはずの「新しい何か」を追い求めて止むことのない生き方とそれを促す言葉と、近代と現代、e モダンを生み出したクドウカそのものだったに違いない。(山室信一)「モダン語の世界へ——流行語で採る近代」による)

- 注1 モダン＝現代的であること、現代風であること。特に、一九二〇～三〇年代にかけて大流行した語で、当時において最新であることをいう。
- 注2 キネマ＝映画のこと。Kinetographの略。
- 注3 高速度時代＝速度を重視し、スピードを第一とする時代。
- 注4 ニュー・メディア＝ここでは、従来の新聞・雑誌に加えて、近代に普及した電話・ラジオ・映画・レコード・写真・ラフ誌などのメディアを指す。
- 注5 第一次世界大戦＝一九一四～一八年にかけて行われた世界規模の戦争。ヨーロッパが主戦場となったが、日本もフランス・イギリス・ロシア・イタリアなどの連合国側で参戦した。

入試概要	総合型選抜	公募型学校推薦選抜	公募型学校推薦選抜	英語	公募型学校推薦選抜	学	公募型学校推薦選抜	物	化	公募型学校推薦選抜	学	国	公募型学校推薦選抜	語	一般選抜	一般選抜英語	一般選抜日本史	一般選抜世界史	一般選抜生物	一般選抜化学	一般選抜数学	一般選抜国語	音楽実技
------	-------	-----------	-----------	----	-----------	---	-----------	---	---	-----------	---	---	-----------	---	------	--------	---------	---------	--------	--------	--------	--------	------

問一 〰〰〰線部A～Fの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 1 ～ 6。

- A カチユウ 1
1 父はカモクメな人だった。
2 対流のカドウを観察する。
3 魚ガシに買い付けに行く。
4 実力をカシンする。
5 ドラマがガキヨウに入る。

- C ソクオウ 3
1 ジンソクな対応を心がける。
2 当主にソクシツを迎える。
3 距離をモクソクする。
4 ソクセキ料理を出す。
5 図書の返却をトクソクする。

- E セツバク 5
1 佳人ハクメイ。
2 ハ克蘭強記を誇る。
3 ガイハク許可を取る。
4 沖を運行するセンバク。
5 ハクガイと差別の歴史。

- B トウツツ 2
1 内心のカットウ。
2 ケントウシの廃止。
3 全山をトウハする。
4 ネットウの挨拶。
5 師のカントウを受ける。

- D チョウリュウ 4
1 マンチョウの時の水位。
2 チョウオケ力を競う。
3 写真をチョウフする。
4 自然とのチョウウ。
5 ツイチョウ金を払う。

- F クドウカ 6
1 公私コンドウ。
2 デンドウ入りを果たす。
3 心理をドウサツする。
4 信者をキョウドウする。
5 キョドクが審な人物。

問二 a e に入る最も適当な言葉を、次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号は一度しか選べません)。解答番号は a が 7、b が 8、c が 9、d が 10、e が 11。

- ① そもそも ② それこそ ③ つまりは ④ なぜか ⑤ また ⑥ もはや

- 問三
15、い ほ
16、い ほ
12、ろ
13、が
14、に
15、い ほ
16、い ほ
12、ろ
13、が
14、に
1 (1) 細分化 (2) 再構築 (3) 差別化 (4) 集大成 (5) 度外視
1 (1) 穏健化 (2) 可視化 (3) 言語化 (4) 一元化 (5) 現代化
1 (1) 水統 (2) 陸統 (3) 接続 (4) 航統 (5) 継統
1 (1) 有利 (2) 枕元 (3) 座石 (4) 危険 (5) 自然
1 (1) 煩わしく (2) にぎにぎしく (3) 懐く (4) たやすく (5) 目まぐるしく

問四 〰〰〰線部ア「恣意的、イ「喫察の」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号はアが 17、イが 18。

- ア「恣意的」 17
1 何かの目的があつてわざとそうすること。
2 意識せず突然行動すること。
3 理屈に合っていること。
4 論理的な必然性が無いこと。
5 物事をこまかくとらえること。

- イ「喫察の」 18
1 差し迫っていて大切な非常事態におけるさしあたって当面の何よりも重要な解決しなくてはならない

問五 〰〰〰線部1「ともかくそのままモダンといった方が便利な語である」(『世界新語大辞典』)と書いて投げ出すより仕方なかつたのである」とありますが、筆者はなぜそのように考えているのでしょうか。その理由を説明した文として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つを選び、マークしなさい。解答番号は 19。

- ① 時代を定義した上で新しい言葉の生まれた背景や意味を明確に記録することが、辞典編纂者に求められる姿勢であるといえ、近代の急激な高速度化に対処できないまま編纂に携わらざるをえなかつたから。
② 新しく生まれた言葉の意味を正確に知り辞典に取載することが、辞典編纂者に課された義務であるが、それを実現する上で必要な知識や能力が当時の辞典編纂者には欠けていたから。
③ スピードを重視する新しい時代にあつては、新時代の具体相の分析や叙述に時間を割いては、急激な変化に取り残され、旧来の枠内にとまどつてしまつたであろうから。
④ 時代を定義し端的に叙述するには後の時代を待たねばならない側面があり、急激な変化を強調しながらも新時代の実態や性格を明晰に整理して提示することは困難だったから。
⑤ 言葉の変化を整理し分析することから時代認識を刷新しようとする辞典編纂者の姿勢は、言語学にとつても急激に新しい局面へと進む可能性を含むものだったから。

問六 線部2「現実の環境とは異なる疑似環境を生み出すにあたって、重要な役割を果たすのはマス・メディアを通じて流される情報であり、流行語である」とありますが、これについて説明した文として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 20。

- ① 日本において現実で新しい生活様式を経験した人々が、マス・メディアを通じて情報や新語を発信することによって疑似環境を構築する固定観念を生み出したということ。
② 現実では新しい生活様式の変化を経験できなかった人々が、マス・メディアが発信する情報や新語をもとに、自分たちの現実にあてはめながら疑似環境を構築したということ。
③ 生活様式の変化に現実で直面する前に、マス・メディアが発信する情報や新語を通じて醸成されるイメージによって構築された疑似環境を、まずは享受したということ。
④ 日本においては生活様式の変化は現実においては進んでいなかったが、マス・メディアがこころに変化を強調した情報や新語を発信したことにより、疑似環境のみが変化していったということ。
⑤ 生活様式の変化は現実においては必ずしも良い結果を生み出すわけではなかったが、マス・メディアが変化を新しさとして発信したことにより、良いイメージが強調された疑似環境が構築されたということ。

問七 線部3「なぜ、モダン語辞典が次々と必要となっていたのか」とありますが、その理由を説明した文章として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

- ① 第一次世界大戦後に、激しく変化してゆく新しい時代に生きるため、社会生活全般に改造・改善が求められた。その上で、社会生活の基盤となる思想・言葉の改造も当代の課題と考えられたから。
② 第一次世界大戦後に、急速に変化してゆく世界情勢や生活様式に対応するため、社会生活の改造・改善がスローガンとなった。そこで国民に強く訴えかける言葉とは、改造された思想・言葉にはかならないと考えられたから。
③ 第一次世界大戦後に、混乱した世界情勢および社会生活を立て直すためには、国・世代の別を越えて思想を共有する必要がある。そのためには言葉の共通理解が不可欠と考えられたから。
④ 第一次世界大戦後に、世界では社会生活の変化が急速にもたらされたが、日本ではそれに対応することができなかった。そこで思想・言葉の改造によって日本でも社会生活の改造を促そうと考えたから。
⑤ 第一次世界大戦後に、まず第一に求められたのは社会生活の改造・改善であった。その上で等閑視された思想・言葉の変化をこそ取り上げるべきというのが日本で見出された課題であったから。

二 次の文章は、宇治の八の宮が、宇治の自邸に娘の大君(姉)と中の君(妹)を残し、常日ごろから師と仰ぐ阿闍梨のいる山寺へ仏道修行のため参籠する場面です。出立を前に八の宮は姉妹の部屋を訪れます。これを読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 23、42。

まだ暁に出でなまるとても、こなたに渡りたまひて、
「ながらむほど、心細くおぼしむらび。心ばかりはやりて、遊びなどはしたまへ。何ことも思ふにえかなまじき世を。思し焦られそ。」
など、返り見がらにて出でたまひぬ。二ところ、いと心細くもの思ひつづけられて、起き臥しうち語らひつづ、
「一人一人なからましかば、いかで明かし奉らさ。甲。今、行く末も定めなき世にて、もし別るるやうもあらば」
など、泣きみ笑ひみ、たはぶれこともまめめことも、同じ心に慰めかはして過ぐたまふ。
「この行ひたまふ三昧、今日果てぬむと、いつしかお待ちきこえたまふ夕暮れに、人参りて、
「今朝は極ましくしてなむ、乙。風邪かたて、とかくつろろふものするほどになむ。さるは、例よりも対面しことなきを。」
と聞こえたまへり。胸つぶれて、「いかなるにか」と思し嘆き、御衣ども、綿厚くていそぎさせたまひて、奉れなしたまふ。
「二三日おこたりたまはず。いかにいかに」と人奉りたまへど、
「ことにおどろおどろしくはあらず、そこほかとなく苦しうなむ。少しもよろしくならば、いま念じて」
など、言葉にて聞こえたまふ。
阿闍梨つとさぶらひて、仕うまつりける。
「おはなき御悩みと見ゆれど、限りのたびにもおはしますらむ。君たちの御こと、何か思し嘆くべき。人はみな御宿世といふもの異々なれば、御心にかかるべきにもおはしますらす」

と、いよいよ思し難るべきことを聞こえ知らせつづ、
「なまらにな出でたまひぬ。」
と、いさめ申すなりけり。
「X のほどなりけり。おほかたの空の気色も」とどしきころ、君たちは、朝夕、Y の晴る間もなく、思し嘆きつづながめたまふ。有明の月のいとほなやかにさし出でて、水の面もさやかに澄みたるを、そなたの番上げさせて、見出だしたまへるに、鐘の声すかに響きて、「明けぬ」と聞こゆるほどに、人々来て、
「この夜中はかになむおせたまひぬ。」
と、泣く泣く申す。心にかけて、「いかに」とは絶えず思ひきこえたまへれど、うち聞きたまふには、あさましくものおぼえぬ心地して、いとどかかかるとは、涙もいづつか去にけん。ただうつつし臥したまへり。いみじき目も、見る目の前はおぼつかかなからぬこと常のことなれ。おぼつかなき添ひて、思し嘆くことことわりなり。しばしにても、後れたまつりて世にあるべきものと思しならはぬ御心地もにて、いかでかは後れじと泣き沈みたまへど、限りある運なりければ、何のかひなし。阿闍梨、年ご契りおきたまひけるまに、後の御こともよろづに仕うまつる。
「乙き人になりたまへらむ御さまかたちをだに、今一たび見たてまつらむ」と思したまへど、
「いまさら、なでうさることかはべるべき。日ごろも、また会ひたまふまじきことを聞こえ知らせつれば、今はまして、かたみに御心とめたまふまじき御心づかひを、ならひたまふべきなり」とのみに聞こゆ。おほくしける御ありさまを聞きたまふにも、阿闍梨のあまりさかしき聖心を、憎くつらしとなむ思しける。

(源氏物語 による)

注1 心ばかりはやりて〓気持ちだけは前向きに明るくするよう心がけて。  
 注2 かの行ひたまふ三昧〓八の宮が山寺で行っている念仏三昧の仏道修行。  
 注3 言葉にて〓手紙ではなく、使者による口頭だけの伝言で。  
 注4 いとしきころ〓秋のものさびしさがさらに深まるころ。  
 注5 後の御こと〓葬送や法要。

問一 〓〓線部 a、f の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
 解答番号は 23 ～ 28。

a 「なからむほど」

- ① 合奏できない時間
- ② 死んでしまった後
- ③ 食物の乏しい季節
- ④ 手紙の来ない期間
- ⑤ 留守にしている間

23

b 「いとて」

- ① いよいよ
- ② おたがいに
- ③ 少し
- ④ ずっと
- ⑤ たいへん

24

c 「心もとみき」

- ① 困難である
- ② 心配である
- ③ ためらわれる
- ④ 待ち遠しい
- ⑤ ものさびしい

25

d 「おごたりたまはず」

- ① 快方に向かないさならぬ
- ② 絶えずお見舞いなさる
- ③ 治療に専念なさる
- ④ 報告なさらず
- ⑤ 休まず介護なさる

26

e 「おどろおどろしく」

- ① 大げさなほど
- ② 恐ろしく
- ③ 驚くほど
- ④ さほど軽く
- ⑤ 薬が必要で

27

f 「な出でたまひそ」

- ① 決して口外なさいはいけません
- ② 手紙をお出しになりますな
- ③ 寺からお出になりませんな
- ④ まさか出家なさらないでしょう
- ⑤ もう下山はなさらないでしょう

28

問一 〓〓線部 A、F について、E、J」と文法的に同じものはどれですか。次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
 解答番号は 29。

- ① A「れ」
- ② B「ら」
- ③ C「り」
- ④ D「れ」
- ⑤ F「ら」

問二 〓〓線部 i、iv は誰から誰に対する敬意を表していますか。最も適当なものを、それぞれ次の①～⑧の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません)。  
 解答番号は i が 30、ii が 31、iii が 32、iv が 33。

- ① 八の宮から大君と中の君に
- ② 八の宮から阿闍梨に
- ③ 使者から大君と中の君に
- ④ 大君と中の君から阿闍梨に
- ⑤ 阿闍梨から八の宮に
- ⑥ 阿闍梨から大君と中の君に
- ⑦ 語り手から八の宮に
- ⑧ 語り手から大君と中の君に

問四 甲、乙 に入る語として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は i が 34、ii が 35。

- 甲 ① ざる ② なむ ③ ばや ④ まし ⑤ まほし
- 乙 ① けり ② なり ③ まじ ④ めり ⑤ らむ

問五 X、Y に入る語句として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は X が 36、Y が 37。

- X ① 七月七日 ② 八月十五日 ③ 八月二十日 ④ 九月九日 ⑤ 十月二十日
- Y ① かすみ ② 霧 ③ 時雨 ④ 梅雨 ⑤ みぞれ

問六 〓〓線部ア「御心にかかるべきにもおはしませず、イ「いみじき目も、見る目の前におほつかかなからぬことなれ」となれ、エ「なでうさることかはべるべき」の現代語訳として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号はアが 38、イが 39、エが 40。

- ア「御心にかかるべきにもおはしませず」
- ① 大君と中の君の将来については心配なさる必要はございません
- ② 軽い風邪に過ぎないので大君も中の君ももう安心でございます
- ③ ご自身の病気の予後について気になさるべきではないでございます
- ④ 人間の寿命というものは考えてもしかたないものでございます
- ⑤ 来世のことは今さら願ってみても意味のないことでございます
- イ「いみじき目も、見る目の前におほつかかなからぬことなれ」
- ① 父の死去という悲しいことも、姉と妹で顔を合せているといつもあきれかえるばかりであるのに
- ② 父の死去という悲しいことも、遺骸を確認してからはっきり告げられるのが尋常のことであるのに
- ③ 父の死去という悲しいことも、実際にしなやかきりと思いが当然のことであるのに
- ④ 父の死去という悲しいことも、直接そばにいて状況が確かめられるのが世間普通のことであるのに
- ⑤ 父の死去という悲しいことも、目の前で見たらは極楽往生を遂げたと思いがちなものであるのに

# 国語〔前期A方式 1/29〕

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
数 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語

エ「なでうるることかほるべき」

① あの世界に行つた八の宮を何とかしてよみがえらせる方法はないでしょうか  
 ② いつまた八の宮の出家した生前の姿を見る機会がこの世であるでしょうか  
 ③ どうして八の宮の遺骸を葬ったとき宇治を離れることができるでしょうか  
 ④ なぜ死んでしまった八の宮と最後の対面をしたいなどと思うのでしょうか  
 ⑤ もう一度八の宮の亡骸と対面することなどどうしてあつてよいでしょうか

問七  
線部ウ「しばしにても、後れたまつりて世にあるべきものと思しならは御心地ども」とはさういふことですか。最も適當なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **41**。

① 大君と中の君が、八の宮から後に残されたならばたちまち生活に行き詰るとは全く聞いていなかったこと。  
 ② 大君と中の君が、八の宮から自分の死後どのように生活していくかについて何も教えられていなかったこと。  
 ③ 大君と中の君が、八の宮が死んだならば自分たちもすぐに父の後を追つて死ぬうと思つていたこと。  
 ④ 大君と中の君が、八の宮の臨終の時に間に合わなければ生きていかないとすつと信じていたこと。  
 ⑤ 大君と中の君が、八の宮に先立たれてしまった時には喪が明けたならば出家しようと思つていたこと。

問八  
線部オ「憎くつらしとなむ思しける」とありますが、大君と中の君がどう思つておられるのか。その理由として最も適當なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **42**。

① 生きている間に今一度娘たちに会いたいという願いを参籠中に訴えたにもかかわらず、阿闍梨が対面を許さなかったため、執着を抱いたまま八の宮が死んでしまったのでは不安に思つたから。  
 ② 現世に執着を残さないためには今後親子の対面はあつてはならないと阿闍梨が論じたために、八の宮が娘たちとの縁を絶ち切つて山寺に籠り、仏の道へ入つてしまったことを恨めしく感じたから。  
 ③ 父八の宮の亡骸との対面をいさめたり、山寺参籠中も厳しい修行生活を八の宮に課したりした阿闍梨の仏道一途に悟りきつた態度に、娘の気持ちとしては非人情なところがあるように感じたから。  
 ④ 父八の宮の臨終に立ち会うことを拒否したり、山寺で仏道修行をしている最中には娘たちと会うことを禁じたりした阿闍梨の冷酷な性格に、遺族としては納得できない点があるように思つたから。  
 ⑤ 山寺に参籠して修行を続ける八の宮が娘たちに対面したり、娘たちが八の宮の亡骸を見たりすることへの執着が残るのでよくないと禁じる仏教の教理が、あまりに人間的でないと考えたから。

# 国語〔前期A方式 1/30〕 (時間80分)

一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

① 次の文章は、小説家の村上春樹が「グレート・ギャツビー」という作品の翻訳に付したあとがきの一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は **1** ～ **23**。

翻訳というものは多かれ少なかれ「興味期限」というものがある。

詰まるどころ言語技術の問題であり、技術は細部から古びていくものだからだ。不朽の名作というものはあつても、不朽の名訳というようなのは原理的に存在しない。どのような翻訳も時代の推移とともに、辞書が古びていくのと同じように、程度の差こそあれ古びていくものである。もちろん僕の翻訳だってその例外ではない。そういう意味では、特定の翻訳を通しての原作の「刷り込み」みたいなものは時としてむしろ作品そのものを損なうリスクをはらんでいるのであるまいか、とさえ僕は考へてきた。だからこそその時代の時代によって、翻訳のヴァージョン・アップのようになつてはあつてしかるべきなのだ。少なくとも多様な選択肢というのは、読者にとってないよりはあつた方が選好に好ましいはずだ。

それからこれまで刊行された「グレート・ギャツビー」のいくつかの翻訳書をひととおり読んでみて思ったのは、その翻訳の質とはべつに、「これは僕が考へる『グレート・ギャツビー』」とはちよつと(あるいはかなり)違う話みたいに見える」ということだ。もちろんこれは、僕がこの小説について抱いてきた個人的なイメージをもとにして述べているのであつて、客観的な——あるいは **い** 的な——批判あるいは評価という風にとつてももらいたくない。僕にはそんな偉そうなことを言う資格はない。ただそれぞれの翻訳に対して、多少の差こそあれ、「僕の感じている『グレート・ギャツビー』」という物語とは、どうしてこんなにも印象が違ふものになつていくのだろう」と首をかしげないわけにはいかなかった、ということである—— **a** 一人の読者としての、純粋に個人的な観点から。ほかの本についてはこういう余計なことはまず口にしないのだが、「グレート・ギャツビー」だからあえて **A** **ソウ** のないところを言わせていただく。ご理解いただきたい。

逆の言い方をするならば、今回の僕の「グレート・ギャツビー」の翻訳は、きわめて個人的なレベルでなされたものなのだ、と考へていただいてもいいかもしれない。僕はこの小説について僕がこれまで個人的に抱いてきたイメージを明確にし、その **B** **カク** や色合いやテクニクチャーをできるだけ具体的に、触知できる文脈で読者のみなさんに差し出すことを目的として、この翻訳をおこなつた。訳文としてはあつてはいるけれど、どういふことなのか実質がよくつかめない、 **ろ**、ということも極力避けるように努めた。

翻訳というのは、基本的に親切心があるの言う作業だと僕は思つている。意味が合つていれはそれでいいというものではない。文章のイメージがメイリオに伝わらないことには、そこにこめられた作者の思いは消えて失われてしまう。僕ほどに本書においては、出来得る限り親切な翻訳者にならうと試みた。ひとつひとつの文章のプロットの意味を、日本語と少しでも明らかにしていきたくつた。しかももちろん何ことにも限界はある。全力を尽くしたとしか、僕には言えない。(①)

(中略)

「グレート・ギャツビー」って読みましたけど、あれって村上さんが言うように、そんなにすごい作品なんですかね?と口にする人も少なからずいる。僕にはそれがよくわからない。ちよつと待つて下さい。「グレート・ギャツビー」がすごい作品じゃなくて、ほかの何がいったい「すごい作品」なんですか……、とつい詰め寄りたくもなつてくる。しかしその一方でまた、そういうことを口にする人々の心情もまったくわからないではない。というのは、「グレート・ギャツビー」はすべての情景がきわめて繊細に鮮やかに描写され、すべての情念や感情がきわめて精緻に、そして多義的に言語化された文学作品であり、英語で一行一行丁寧に読んでいかないことにはその素晴らしさが十全に理解できない、というところも結局はあるからだ。(②) 「グレート・ギャツビー」において、文章家スコット・フィッツジェラルドの筆は、二十八歳にして **b**。その頂点に達している。ところがそれを日本語に翻訳すると、そこからは否応なく多くの美点が損なわれ、差し引かれていく。(③)

だからこういう小説は原文で読んでいただければいい、ということになつてしまふのだが、ところがこの原文が



また「筋縄ではないかない。空気の微妙な流れにあわせて色合いや模様やリズムを刻々と変化させていく。その自由自在なユウズウ<sup>D</sup>、無碍な美しい文体については、正直言ってかなりの読み手でないと思わずにしろ。ただある程度英語ができればわかる、というランクのものではない。(4)

というわけで、いんぶん強引に「ゴチヨウされた言い方を許していただければ、「グレート・ギャツビー」という小説はこれまで日本の大部分の読者に、本当に正当には評価されてこなかったのではないか、ということになりやうである。少なくとも、これまでにこの小説について意見を交わした人々(その多くは多かれ少なかれ職業的に文学に関わっている人々である)の言いぶんを総合すると、僕としては残念ながら、そのような **は** **な** 結論に至ることにじり寄っていないわけにはいかないのだ。そしてそこにはおそらく、翻訳の限界という大きな障害が存在していた。(5)

(中略)

僕がこの村上訳「グレート・ギャツビー」について心がけたことはいくつもある。翻訳の基本方針<sup>II</sup>と言ってもいいだろう。まずひとつは、これを「現代の物語」にすることだった。この作品は一九二四年に書かれており、舞台は一九二二年に設定されている。この翻訳を行った時点でも、それから既に八十年以上が経過している。大昔の話と言ってもいいくらいだ。しかし僕はこれをありきたりの古典作品にしまいたくなかった。僕にとって「グレート・ギャツビー」は、何があろうと現代に生きていく話でなくてはならないのだ。それが今回の翻訳にあたっての僕の最優先事項だった。だから古風な言い回しや時代的な装飾は、本当に必要なものだけを残り、あとはできる限りお引きとりを願うことにした。あるいは色合いを一段階弱めた。ニックやギャツビーやデージーやジョーダンやトムは、文字通り僕らの隣で生きて、同じ空気を呼吸している同時代人でなくてはならなかった。彼らは我々の肉親であり、友だちであり、知り合いであり、隣人でなくてはならなかった。そのためにはひとつひとつの会話が生命を持ったものでなくてはならない。小説として会話<sup>III</sup>というものが **c** 大事なものになり得るか、それを僕が身にしみて学んだのも、実を言えばこの小説からなのだ。お読みになっていただければわかるように、この小説の登場人物の一人ひとりには、くつきりとしたキャラクターの造形があり、それによってしゃべり方も規定されてくる。しかし彼らは決してひとつの枠の中に固定されてはいない。行動キハンは一貫しているものの、状況によって環境によって、彼らの心や視点は——あなたや僕と同一生身の人間として——微妙にぶれていくし、それにつれて彼らのしゃべり方も少しずつ変化していく。そう、彼らの会話は生きたものでなくてはならないし、息づかいのひとつひとつが意味を持たなくてはならないのだ。

もうひとつ僕が心がけたのは、文章のリズムである。スコット・フィッツジェラルドの文章には独特の素晴らしいリズムがある。それはすぐれた音楽を思わせる優美なリズムだ。彼は文章をそのリズムに乗せ、童話に出てくる魔法の豆の木の葉のように、空に向けてどこまでも飛ばすところをばしていき、 **に** **な** 言葉が次々から次へと生まれて、成長していく。空中のスペースを求めて滑らかに移動していく。美しい光景だ。そういうところでは時として理屈も整合性も、どこかに追いやられてしまったりもする。多くの言葉は多義的で曖昧なままに、いろんな可能性や暗示を抱えてはばばになったままに、空中にふっと吸い込まれてしまう。 **d** **何**でここにこんな言葉が急に出てくるんだろうと、まじめな翻訳者としては真剣に首をかしげてしまったりもする。しかしすらすらと読んでいく読者にはそんなことはほとんど気にもならない。その文の比類なき美しさ、その言葉の響きがすべてを語っているからだ。彼が何を言いたいのか、それが読者には読書という流れの中で何の不都合もなく **は** **なく**一瞬にして理解できてしまう。まさに天才肌の文章家なのだ。ところがそのような文章を現実の日本語に移し替えるとなると、これはまさに **へ** **業**だ。

そういう場合には僕は、文章の奏でるリズムをなによりも重視した。それがフィッツジェラルドの文章にとってのひとつの根幹だと感じたからだ。だからまずそのリズムをなんとか日本語とやらに移植し、そのまわりにメロディーやサウンドやリズムをくっつけていくことを心がけた。フィッツジェラルドの文章には、音楽という類推を使うと、より自然に理解できるところがある。時として彼の文章は耳を使って読まなくてはならない。そして声に出しながら移し替えてはならない。それがうまくいったからか、僕にもよくわからない。しかしそれが僕の翻訳にとつてのひとつのポイントであり、基本方針であったということは理解していただきたいと思う。まずリズムがあり、流れがあり、そしてそれに相応しく密着した言葉

が **e** わき出てくる、それが僕の考えるフィッツジェラルドの文章の美点なのだ。  
(村上春樹「翻訳者として、小説家として——訳者あとがき」による)

注1 「グレート・ギャツビー」はアメリカの小説家、スコット・フィッツジェラルド(二八九六年〜一九四〇年)の代表作。村上春樹訳は、二〇〇六年十一月、中央公論新社刊。

注2 テクスチャーは手ざわりや質感。

注3 無碍は邪魔するものがないさま。

注4 ニック以下、トムまで、「グレート・ギャツビー」の登場人物。

注5 リリックは歌詞。

問一 線部A~Fの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①~⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は **1** **6**。

- A フクゾウ
- ① フクジキな効果を得る。
  - ② てきえにカンブクする。
  - ③ 感情のキブクが激しい。
  - ④ ホウブク絶句の面白さ。
  - ⑤ ゼンブクの信頼を置く。

- B リンカク
- ① カククンに腕を上げる。
  - ② カクキ決定を経た方針。
  - ③ カクセイの感を感じる。
  - ④ 優れたサイカクを持つ。
  - ⑤ 文料者のガイカク団体。

- C メイリョウ
- ① ギリウが問われる。
  - ② 一目りウゼンの結果。
  - ③ キユウリョウ地帯。
  - ④ ゼンリョウな市民。
  - ⑤ 一挙リョウトク。

- D ユウソウ
- ① 無担保でユウシする。
  - ② リョウユウ並立した。
  - ③ ユウシユウの美。
  - ④ 各地をレキユウする。
  - ⑤ ユウソウ自適の生活。

- E コチョウ
- ① コウの憂いなし。
  - ② コタン<sup>II</sup>の境地。
  - ③ エンコを頼る。
  - ④ 蔵書重をコンする。
  - ⑤ 士気をゴブする。

- F キハン
- ① 生涯のハンリョを得る。
  - ② ハンヨウ性が高い。
  - ③ シハン代を務める。
  - ④ ハンザツな手続き。
  - ⑤ ハンボウ期を迎える。

問二 線部ⅰ・ⅱの漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 7・8。

- i 不朽 (1) ふくつ (2) ふき (3) ふもつ (4) ふきゅう (5) ふこう
ii 精緻 (1) せいち (2) せいび (3) しょうち (4) しょうび (5) せいみつ

問三 に入る最も適当な言葉を、それぞれの①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 9、10、11、12、13、14。

- 12 (1) 理末 (2) 學術 (3) 具体 (4) 世俗 (5) 倫理
(1) じんと来ない (2) ぐつと来ない (3) キュンと来ない (4) ピンと来ない (5) カチンと来ない
(1) 暫定的 (2) 流動的 (3) 絶対的 (4) 便宜的 (5) 悲観的
(1) 流麗 (2) 知的 (3) 鮮烈 (4) 強靱 (5) 脆弱
(1) 根も葉も (2) 希望も (3) 感慨も (4) 遅延も (5) 取りとめも
(1) 崇高な (2) 怡好の (3) 至難の (4) 天賦の (5) 劣悪な

問四 a に入る最も適当な言葉を、次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号は一度しか選ばれません。解答番号は 15、16、17、18、19、20)

- 17 (1) d (2) e (3) a (4) b (5) c
18 (1) が (2) いたたい (3) 必ずしも (4) まさに (5) おのずと
19 (1) が (2) 必すしも (3) まさに (4) おのずと (5) あくまで

問五 次の文章が入る最も適当な箇所を、問題文中(1)～(5)の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

デリケートなワインが長旅をしないのと同じことだ。独特のアロマやまろみや舌触りが、避けがたく微妙に失われいく。

問六 問題文中の X に入る最も適当な文を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

- 1 賞味期限のない文学作品というの自体考えにくいわけだが、ましてや翻訳となるとなおさらのことである。
2 賞味期限のない文学、翻訳を、作家としては目指すべきではあるが、実際はそう簡単にはいかないのである。
3 賞味期限のない翻訳を生み出すためには、相当なレベルの言語技術が翻訳者に求められることになるだろう。
4 賞味期限のない文学作品は数多くあるが、賞味期限のない翻訳というのはいま存在しない。
5 賞味期限のない翻訳が減少にあるものではないだけに、翻訳者は常に技術の向上を求める。

問七 線部ⅰは考えていることありますが、筆者が考えている内容として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 22。

- 1 ある特定の訳者による翻訳が特権的な位置を保ち、「この作品の訳はこうあるべきだ」というような意識が読み手に浸透していくのは、読み手をその作品をめぐる権威主義に加担させることになる一方で、原作が本来持っていたはずの持ち味を十分に把握しないままに終わってしまう、というように起こりうるもので、望ましいことではない。
2 ある特定の翻訳を通して原作のイメージが定着してしまうと、その翻訳の言葉が古びていくのと共にその作品も経年劣化は避けられず古くさい作品と化してしまふことになり、原作が本来持っていたはずの生き生きとした生命力を失うことに繋がりがねないので、翻訳を刷新し、その時代に息づく文章で訳しかえしていくことが必要である。
3 ある特定の訳者による翻訳によって、「この作品はこういった作品だ」というイメージが定着するということは、例えばその訳の操る言葉が時代遅れのものであった場合でも、翻訳によってしか原作を享受することが叶わない読者は、実は作品が損なわれていることに気づかない、ということがおきかねないので、翻訳を読むうえでは注意すべきである。
4 ある特定の訳者による翻訳だけに頼るとするのは、翻訳というものが言語技術の問題と常に連動し合っているものである以上、仮にその訳文に技術面の問題がある場合、原作の持つ力が伝わらない可能性があるため、できるだけ多くの翻訳者によって訳されたものが提供され、読者も複数の訳に拠ることが、原作理解のためには必須であると言える。
5 ある特定の訳者による翻訳のみが流通するようになるのはできれば避けたいことであるので、常に多様な選択肢を用意し、定期的な翻訳を刷新して時代を先取りした訳文を読者に提供していくことが、極めて重要である。

問八 線部ⅰ「翻訳の基本方針」とありますが、「アレート・キャッツビー」を訳すに当たって筆者が重んじた事柄として適当ではないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 23。

- 1 筆者は、フィッツジェラルドの文章の性格が音楽に近しいことから、リズム・メロディー・リリックなど音楽の制作を意識し、原作のリズムをできる限り崩さずに日本語に置きかえるよう試みた。
2 原作の執筆時期や舞台に設定されている時期を思わせるものをできるだけ排除し、登場人物たちに自分たちと身近な存在のようなリアリティを持たせるために、生き生きとした会話を重視した。
3 筆者は、個人的に造形された登場人物たちの心や言葉に描けるのが本作の魅力であり、それが本作のリアリティに繋がっていることを意識して、それを翻訳においても活かそうとした。
4 筆者は、翻訳した時点で八年以上の昔の作品であった本作を、原作の発表当時や舞台になっていた時代の色を残しつつも、自分の側に引き寄せ、間に横たわる時代の差を埋めようとした。
5 筆者は、フィッツジェラルドの、リズムは良いが多くの意味が重ねられた曖昧な言葉が、原文においても理解されにくいことに留意し、すらすらと読者が把握しやすい訳文を書くことを追求した。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 24 ～ 38。

また序にはゆる六歌仙とは、喜撰、猿丸、遍照、業平、小町、黒主がたくひなり。中にも喜撰法師と云ふ者、一節ありける曲者なり。そのゆゑは、その身念仏者にて浮世をいとひ、宇治山に引き籠りつつ弥陀を念じ、その名を基泉と称しつ、ひととせ栗栖野においても尾花の歌とて、

けがれたる手房はふれじ極楽の

A の風吹く秋の初花

と詠みける者が、このたびは、愚僧が詠歌は一代にただ一首上りつ、後日の通れにおのが名を書き替へ、喜撰と称す。これも今度の撰集を喜悅の心にかく書くなり。惣じて、凡心のならひには我を知るゝこと難くして欲心必ず離れ

B なり。しかるに己が詠み置く歌数百に及ぶ中を撰んで、皆その不可捨てけること、貫之、躬恒にも勝り、友則、虫穿も及び難き名譽の歌仙と云ひつべく、恐ろしかりける法師かな。また小欲にもありけるかな。

次に猿丸大夫と云ふは、それ元弓削道鏡とて威猛気高き大臣なりしが、帝位に望みを掛けまくも忝くも時の天子孝謙女帝に密通して謀位の沙汰に及ぶころほひ、和氣清盛を宇佐へ下し、「神勅を偽り候へ」と命じけれども、清盛もとより廉直潔白

なる男にて、阿党せずして筋を断たれ、流刑に遇ひつ。その後、帝崩御ありしかば、「道鏡を今は憚る所なく重科に処すべき者なれども、さしも先帝の寵み深かりし者語聞にいかか」と諷むる人もあれば、下野国に流しけり。なほその上にも、昨日

今日まで大臣たるを、そのまま配所へ遣はさんこととすかりとて、江州田上の別業に一年旧主の喪を終らせ、その間に髪を生はしつづ名を改めて、猿丸大夫と名づけて下せしほどの身なれど、歌においては秀逸多く撰び入れられたりけるが、なほこの猿丸と云ふ名をも記さざりしは朝廷の勅撰を憚る所以なり。

このほか小町、業平は無双の歌人なるゆゑに、多くこの集に入れられたり。貫之、躬恒、虫穿らも、自讃の歌は入れ難んぬことに貫之は童形の時、阿古丸とて長谷に手習ひして住み侍りつ、堀京の後、年を歴てまたかの坊へ訪ひたりし時、坊主が

「人はいさ心もしらずふるさは花ぞ昔の香に匂ひける」と詠みしは、まことに秀逸なるをや。

また虫穿が、

有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし

と詠みたる歌は、上の句のはじめの文字と下の句のはじめの文字の仮名同じくして、両頭病と云ふものなれども、物体秀歌なるに免してこれをとがめず加入しけるは、いよいよ面目と云ひつべし。およそ歌には四病八病種々の病のあることを、人丸の娘

石見女ならびに浜成と云ふ者の式にも戒めたりけるが、これらの例に基づいて、後代には歌の病の禁、少し沙汰しやみ侍るに、この忠告はこの道において良医の徳まで具足するなり。

（平任専庵「前々太平記」による）

注1 栗栖野 京都市北区の鷹ヶ峰の東側の地。  
注2 宇佐 大分県の宇佐八幡宮。  
注3 阿党せず 権力を持つ者におもねることなく。  
注4 諷聞 天皇が父母の喪に服する期間。  
注5 長谷 奈良県の長谷寺。  
注6 人丸の娘石見女ならびに浜成と云ふ者の式 「石見女式」、藤原浜成「歌経標式」は、いずれも作歌のための規則を記した歌学書。

問一 〳〵線部 a) e の意味として最も適当なものを、それぞれ次の ①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 24 ～ 28。

a 「二節ありける」

- ① 一世を風靡した
- ② 歌舞音曲を得意とする
- ③ 見どころのある
- ④ 気骨の備わった
- ⑤ 風流を第一とする

b 「後日の通れに」

- ① 後になつての言いわけのために
- ② いずれは極楽往生できるように
- ③ 苦境をやがて抜け出せるように
- ④ 今後は修行に専念できるように
- ⑤ 将来宇治山から出て行くために

c 「さすがなり」

- ① あまりに急すぎることである
- ② いくらなんでも問題がある
- ③ これまで例のないことである
- ④ そうはいっても当然である
- ⑤ なかなか思い切ったことである

d 「無双の」

- ① 傑出した
- ② 競合しない
- ③ 堅忍不拔の
- ④ 後塵を拝する
- ⑤ 不倶戴天の

e 「かこちて」

- ① 急いで出て来て
- ② 口実に使つて
- ③ 懐かしんで
- ④ 話を蒸し返して
- ⑤ 不満を口にして

問二 A に入る最も適当な言葉を、次の ①～④の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 29。

- ① 東
- ② 西
- ③ 南
- ④ 北

問三 B・C には同じ助動詞が入ります。その助動詞の終止形として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 30。

- ① き
- ② けり
- ③ ず
- ④ まじ
- ⑤ む

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英語
数
学
生
物
化
学
国
語
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

問四 — 線部ア「愚僧が詠歌は一代にただ一首にて候ふ」、ウ「二年旧主の喪を終らせ」、オ「人はいさ心もしらず」の現代語訳として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号はアが 31、ウが 32、オが 33。

- ア 「愚僧が詠歌は一代にただ一首にて候ふ」
- ① 和歌の下手な僧が詠んだのは生涯にこの一首きりでございます
  - ② 才能のない僧も勅撰集にせめて一首は採りたいのでございます
  - ③ 未熟者が和歌を詠むのは帝一代につき一首が限度でございます
  - ④ 凡庸な僧の詠んだ和歌はこの帝の治世には一首だけでございます
  - ⑤ 私のような者が詠んだ和歌は一生の間にこの一首だけでございます
- ウ 「二年旧主の喪を終らせ」
- ① 一年経って清盛の喪が明けたので
  - ② 一年にわたって帝の喪に服させて
  - ③ 昨年亡くなった元の主君の葬儀を済ませて
  - ④ 仕えていた帝が一年前に崩御して
  - ⑤ 昔仕えていた主君の喪を一年で打ち切って

問五 — 線部イ「名譽の歌仙と云ひ少しく、恐ろしかりける法師かな」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 34。

- オ 「人はいさ心もしらず」
- ① あなたがどう思っているのかさそれはわからないけれど
  - ② 今でもう子どもころの気持ちは全くわからないけれど
  - ③ 人間はいつまでも同じ気持ちでいることはできないけれど
  - ④ 久しぶりに会った人の考えはすぐには理解できないけれど
  - ⑤ 人は私がどう思っているか少しもわかってくれないけれど
- イ — 線部イ「名譽の歌仙と云ひ少しく、恐ろしかりける法師かな」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 34。
- ① 人生を通して詠んできた多数の和歌は駄作だと悟り、欲を捨てたことよって見事に勅撰集に入ったから
  - ② 勅撰集編纂を知りこれまで詠んできた多くの自分の詠歌の代表作一首だけを残り、ほかは潔く捨てたから
  - ③ 僧侶でありながら仏道だけでなく和歌の道にも卓越し、専門の歌人たちと肩を並べて勅撰集に入ったから
  - ④ 仏道修行で体得した欲を捨てるといふ境地を、和歌の道でも示すことで勅撰集に入る宿願を達成したから
  - ⑤ 和歌に対する自分の眼力を信じて、一首を残すすべて破棄するといふ無謀な企てが幸運にも成功したから
- 問六 — 線部エ「この猿丸と云ふ名をも記さざりし」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 35。
- ① 権威ある勅撰集なので本名である道鏡の名前で出ること希望したということ
  - ② 猿丸というのは罪人に付けられる名前なので勅撰集に載せられないということ
  - ③ 寵愛を受けていた天皇が崩御したことに遠慮して猿丸の名を出さなかったこと
  - ④ 本名を記す勅撰集の慣例に改名後の猿丸という名前がふさわしくなかったこと
  - ⑤ 和歌の作者として猿丸という名前がこの勅撰集のどこにも書かれていないこと

問七 — 線部カ「この道において兵衛の徳まで具足するなり」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 36。

- ① 石見女や浜成が作った厳密な和歌の詠み方の規則に、忠岑が和歌の実作者の立場から異を唱えて改訂したこと
  - ② 伝統的に和歌の四病八病と呼ばれて禁じられていた詠み方を、忠岑が整理しなおして制限が少なくなったこと
  - ③ 名人が詠んだ歌にも例があるということで、忠岑のおかげで厳しかった和歌の詠み方の禁則が緩和されたこと
  - ④ やつてはいけないとされた詠み方を用いて秀歌を作り出すことによって、歌病ではないと忠岑が証明したこと
  - ⑤ 詠み方の規則からはずれて詠まれたため非難された和歌を、名手忠岑がやすやすと添削し修正してみせたこと
- 問八 — 線部甲「六歌仙」、乙「今度の撰集」について、以下の(一)～(二)の問いに答えなさい。
- (一) 問題文冒頭の「喜撰、猿丸、遍照、業平、小町、黒主」のうち、誤って「六歌仙」として名前が挙げられているのは誰ですか。最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 37。
- ① 喜撰
  - ② 猿丸
  - ③ 遍照
  - ④ 業平
  - ⑤ 小町
  - ⑥ 黒主
- (二) 「今度の撰集」の仮名序の作者は誰ですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 38。
- ① 在原業平
  - ② 大江家持
  - ③ 紀貫之
  - ④ 醍醐天皇
  - ⑤ 藤原定家

(国語問題 おわり)

入試概要	総合型選抜	公募型学校推薦選抜	英 語	数 学	学 生	物 理	化 学	国 語	一 般 選 抜	一 般 選 抜 英 語	一 般 選 抜 日 本 史	一 般 選 抜 世 界 史	一 般 選 抜 生 物 学	一 般 選 抜 化 学	一 般 選 抜 数 学	一 般 選 抜 国 語	音 楽 実 技
------	-------	-----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---------	-------------	---------------	---------------	---------------	-------------	-------------	-------------	---------

B 国 語

必答問題

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 1 ～ 23。

初期のソシュールはまず人間のもつ普遍的な言語能力・シンボリック化活動を（ランガージュ）と呼び、これをその社会的側面である（ラング）（＝社会制度としての言語）と個人的側面である（パロール）（＝現実に行われる発話行為）に分けた。

本来的には、言語学が人間の（文化化された自然）の根柢にある分節言語を探ろうとするエイイである限り、その対象はランガージュであるべきだが、研究者は現実存在する日本語、英語、フランス語といったラングを通してしかその本質には迫れないであろう。ソシュールは、母国語であれば幼年時代に、第二言語であればも後に作られる心的構造をラングと名づけ、これによって人は自己の経験进行分析し、発話の際に必要な選択をすることが可能になると考えた。すなわち、ある特定のラングのなかには、音声の組み合わせが、語同士の結びつきなどに一定の法則があり、この法則の総体がラングであってこれはあくまでも超個人的な抽象的条件であるとする。そしてこれは一つの社会制度にはかならない。

a ラングは社会生活の所産であり、生理器官の本能的使用とは本質的に異なるその社会固有の価値観をもつ構造であり、社会成員の暗黙の契約のことさのものにもついているからである。

b 現実の発話に現れた言行為は、特定の話者によって発せられた具体音の連続であり、ソシュールはこれをパロールと呼んだ。ラングはパロールの条件であり規則の体系であっても、パロールによってしか顕在化しない潜在構造である。

以上の一見抽象的なランガージュ、ラング、パロールの概念が意味するものは何であろうか。これを理解するためには、ごく身近な日常の言語状況に目を向けてみる必要がある。私たちは地上に生を受けた瞬間から言葉に囲まれ、言葉によって育てられ、言葉を通してものを考え、言葉によって他者との関係を構築しつづけていく。あまりにも身近であり、

なものであるが故に、ほとんど反省的に言葉を考えてみることもない。

特にマス・コミュニケーション手段が途方もなく豊富になった現代にあつては、不特定の相手に一方的に送り出されるマス・メディアにのつた言葉は、その非相互性によって大衆の意識操作の手段と化し、人びとは、その情報カシージュによるデイスコミュニケーションに悩まされる。同じ日本語を語っても通じないいらいら、無意味な流行語の氾濫、真の対話の不在、等々、言葉一般に対する不信と絶望感を多少とも感じない人は恐ろしいことである。

一切語ることを拒否してフィリングの世界へとトビたいと思つても、そのように思考すること自体がすでに言葉に依つていることに慄然として気づかねばならないのだ。マス・メディアは、物質的生産の支配者に所有され、

注10 注11 注12 注13 注14 注15 注16 注17 注18 注19 注20 注21 注22 注23

注1 注2 注3 注4 注5 注6 注7 注8 注9 注10 注11 注12 注13 注14 注15 注16 注17 注18 注19 注20 注21 注22 注23

注1 注2 注3 注4 注5 注6 注7 注8 注9 注10 注11 注12 注13 注14 注15 注16 注17 注18 注19 注20 注21 注22 注23

注7 アナグラム研究以前の前期ソシュールは、右のような言語という物神の解明と批判から出発した。そのために構造主義の祖とみなされたソシュールは、しかしながら、「構造」という術語を用いなかった。彼が依つて立つキー・コンセプトは「体系」であり、これには別のような、従来のとは異なった意味がこめられている。

注8 彼の考えた「体系」とは、個々の要素が相互に関わりあつていて全体ではあつても、個は自存実体ではなくて他の個との共存と全体との関係性によって初めて存在する関係性なのである。私という個人も、社会・歴史的な関係の網目の産物としての間我にはかならない。（④）しかし現実にはその関係が物化された形で現れ、私たちはこれを自存的実体と錯視してしまふのである。（⑤）

注9 本質を明らかにすることによって文化一般の記号性とその物象化現象を明らかに出す方法を示唆したソシュールの戦略は、その第一歩として、古典ギリシア以降の西歐形而上学、キリスト教神学、近代科学のいくつかを否定し、一切の実体的思考を解体することをめざした。

注10 丸山圭三郎「言葉と無意識」による

注1 ソシュール一八五七年～一九一三年。スイスの言語学者、言語哲学者。

注2 滲透し次第に広い範囲に行き渡る事。

注3 サルトル一八九〇年～一九八〇年。フランスの哲学者、小説家。

注4 プラトン紀元前五～四世紀頃。古代ギリシアの哲学者。彼の著作『アイマイオス』は、哲学的な理論を用いつつ、宇宙や神々、人間の仕組みを述べるものである。

注5 コーラギリシヤ語で「その中に何かがあるところの空間や場所」の意。

注6 メルロポントイ一八九〇年～一九六二年。フランスの哲学者。

注7 アナグラムⅡ言葉遊びの二種。単語や文の中の文字をいくつか入れ替えて、全く別の意味にする遊び。

問一 線部A～Fの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選り、マークしなさい。解答番号は 1 ～ 6。

注8 構造主義Ⅱソシュールの理論に端を発する言語学上の立場。

注9 開明Ⅱ不明瞭であったことがらをはっきりさせること。

注10 形而上学Ⅱ個々に実在する事物を超えた真理を探究する学問。

注11 イシデンテンの伸。

注12 女王陛下がタイされた。

注13 先輩にコウイを抱いている。

注14 ムイな時間を過ごしてしまつた。

注15 条例にキヨする。

注16 テンジュを全うした。

注17 典義をテンジュする。

注18 合成形Ⅱシン。

注19 ジュキヨウに應じる。

注20 ジュキヨウを学ぶ。

注21 論理がビヤクしている。

注22 お見合いをキビする。

注23 訴訟のビコク人となる。

注24 大臣をビメンする。

注25 ダクビを伝える。

注26 カジヨウ

注27 プームにレンヨウする。

注28 ジョウウシヨウ志向が強い。

注29 ジョウウシ理事。

注30 ヨジヨウ人員を移籍させる。

注31 トビ

注32 ジュキリツ

注33 合形Ⅱシン

注34 ジュキヨウに應じる

注35 ジュキヨウを学ぶ

注36 テンジュを全うした

注37 典義をテンジュする

注38 合成形Ⅱシン

注39 ジュキヨウに應じる

注40 ジュキヨウを学ぶ

注41 論理がビヤクしている

注42 お見合いをキビする

注43 訴訟のビコク人となる

注44 大臣をビメンする

注45 ダクビを伝える

- 丙「捨象」
- 19
- ① 不要なものを無視すること。
  - ② 同類の中に埋没させること。
  - ③ 間接的に否定すること。
  - ④ 具体的に例を挙げること。
  - ⑤ 抽象的にまとめること。

- 乙「疎隔」
- 18
- ① 反発していること。
  - ② うとんじられてること。
  - ③ 親しみをもてないこと。
  - ④ 距離が生じていること。
  - ⑤ おろそかにしていること。

- 甲「傑然」
- 17
- ① びつくりしたさま。
  - ② うんざりしたさま。
  - ③ あきらめたさま。
  - ④ わくわくしたさま。
  - ⑤ おそれ、おののいたさま。

問四 線部甲「傑然」、乙「疎隔」、丙「捨象」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は甲が17、乙が18、丙が19。

- E イソウ
- 5
- ① ソウシヨクを省いた簡素な建築。
  - ② ソウソウ儀礼は変化している。
  - ③ 多様なカイソウに訴えかける。
  - ④ ありえないことをカソウする。
  - ⑤ イッシソウデンの拳法。

- F ダッセイ
- 6
- ① 食べ物がダメになる。
  - ② ダグミンをむさぼる。
  - ③ ダグミンを見解。
  - ④ ダグミンをオウダする。
  - ⑤ 全身をオウダする。

- 問二
- a e
- 9 d 10 e 11
- 1 一方 2 あるいは 3 ます 4 なぜならば 5 たとえば 6 かつて
- 12 13 14
- 15 16
- 17 18 19
- 20 21 22 23

- 問三
- 15 16
- 17 18 19
- 20 21 22 23
- 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

問五 次の一文が入る最も適当な箇所を、問題文中(①)～(⑤)の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は20。

また生産物それ自体が有するかに見える使用価値も、実は交換価値と同じようにその社会内の関係に媒介されてのみ存在する。

問六 線部Ⅰ「人間の持つ普遍的な言語能力・シンボル化活動を(ランガージュ)と呼び、これをその社会的側面である(ラング)（社会制度としての言語」と個人的側面である(パロール)（現実に行われる発話行為）」とありますが、(ランガージュ)（ラング)（パロール)の説明のうち適当ではないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は21。

- ① 言語を形成する要素のうち、具体的に発音される音は(パロール)に含まれる。
- ② (ラング)と(パロール)を合わせた言語の全体像が(ランガージュ)である。
- ③ (ランガージュ)の本質を探ろうとする場合、(パロール)の考察からだけでは迫ることはできない。
- ④ (ラング)とは、その言語が使用される社会において人々が共通に知っておかなければならない要素であり、同時に、規則として人々に強制されるものである。
- ⑤ 現実の発話において、意味の伝達のために複数の具体音が使用されて発音される。この具体音の選択に際して、(ラング)は関係していない。

問七 線部Ⅱ「人間の栄光でもあり悲惨でもあった」とありますが、なぜ「悲惨」であると述べられているのでしょうか。その理由を説明した文として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は22。

- ① 言語を持っていない人間は動物と同等レベルの存在であるから。
- ② 言語は人間社会の分断を生み出してしまうから。
- ③ 言語を使用すると独自の文化を形成することができないから。
- ④ 言語の習得によって幼児の時のことを思い出してしまうから。
- ⑤ 言語を用いてしまうと事物をありのままに認識できないから。

問八 線部Ⅲ「彼の考えた(体系)とは、個々の要素が相互に関わりあっている総体ではあっても、個は自存的主体ではなくて他の個との共存と全体との関連によってはじめて存在する関係態なのである」とありますが、この「体系」を説明した文として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は23。

- ① 個はあくまでも個であって、どのような(体系)にあってもその特徴は一定している。
- ② (体系)における個の特徴は自動的に決定はせず、他の要素との相違や類似などを考慮した上で明らかになる。
- ③ (体系)においては中心となっている唯一無二の個があり、その個との関係によって他の個は特徴づけられる。
- ④ (体系)を構成する個の中には、他との関係を有さない独立した個も存在する。
- ⑤ 個と(体系)の関係は、個が(体系)の特徴を決定づけるといふものである。

選択問題 II (I) 読解問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 31 ～ 49。

カテゴリーの色分けは、四色を超えると、<sup>A</sup>ジヨジョに虹のような配色にシ<sup>B</sup>ウソクしてくる。

(中略)

ただし、この色分けは七色で限界を迎える。七の壁を超えると、色が尽きるのだ。

<sup>a</sup>、色そのものは無数にある。しかし、これがあくまでも <sup>い</sup> 化のための色分けなのだとする、

互いに明確に区別できる有彩色の数はそれほど多くない。この数が実質的に七つ程度であることは、空の虹が八色以上にならないことをはじめ、様々な例が実証している。

(中略)

世界の言語には、数量を表す言葉が二や三までしかなく、それ以上は「たくさん」と表現されるものがある。もちろん我々にはもっと多くの数量を表す言葉があるが、同一カテゴリーの要素を区別するといふ脳機能については、その容量は決して <sup>ろ</sup> ではない、すなわち、一から七までは個別に要素を区別するが、七の壁を超えると、同じものがたくさん、というたえ方になってしまう。

七の壁の内側で、概念の色分けに使われる抽象的な色を、概念と呼ぶことにしよう。例えば、ヘッドホンの左右が青と赤で区別されたり、デジタルTVのリモコンのボタンが青赤緑黄に色分けされたりするのが概念色で、これは空が青かったりマトが赤かったりする物体色とは、まったくの別物である。その証拠に、これら二種類の色はしばしば一致しない。青信号の物体色は緑だが、その概念色は青である。(中略)

概念色の極端な例に、生まれつき(もしくは生後早い時期から)目の見えない先大盲における「色」がある。こうした人は、りんごが赤いことやバナナが黄色いことを、視覚ではなく、言語を介した概念として理解している。そして興味深いことに、

こうして獲得した概念色は、ケン<sup>C</sup>ジョウウ者のそれとはほとんど変わらない(口絵10)。(1)

こうした概念色の知識が処理される脳部位は、先大盲がどうかにかかわらず、左半球の側頭葉前部にあるようだ。視覚ケンジョウ者において、この脳部位は、物体色を処理する視覚野と、言語を処理する言語野の両方とつながっている。つまり、感覚情報としての物体色と、言語情報としての概念がここで統合されて、概念に色が生じると考えられる。

<sup>b</sup> 先大盲では、概念色を処理する左側頭葉前部は、言語野としかつながっていない。<sup>c</sup>、これまで一度も視覚でとらえたことのない野菜や果物の概念色は、視覚ケンジョウ者とほとんど変わらないのである。つまり、概念色の形成に、物体色は必ずしも必要でないことだ。(2) これは逆に言えば、視覚ケンジョウ者の概念色も、かなりの程度、<sup>は</sup> で決まっていることを示唆している。

こうして見ると、物体色のないものに色を感じることがあってもとくに不思議ではない気がする。実際、そのようなことは、脳の視覚処理で日常的に起こっている。(3)

ヘッドマウントディスプレイで360度の<sup>注1</sup>、1チャルリアリテイの風景を提示するとき、風景映像から部分的に色を抜いてみた実験がある。すると条件によっては、視野全体の95%から色が消えて無彩色になってしまう。<sup>D</sup>ヒケン者はそのことに気が付かなかった。つまり我々が視覚でとらえている(と思っている)風景の色は、かなりの程度、実際の物体色とは違うということである。

<sup>d</sup>、現実の風景で森が緑で空が青く見える(と思っている)のも、概念色が物体色に逆投影されているだけなのかもしれない、と疑わしくなってくる。実際、もともと物体色がある場合でさえ、それが概念色の逆投影で書き込まれてしまうことがある。(4)

(中略)

面白いのは、概念色だけが先にあり、それが物体色として現実化するケースである。二つのチームを分ける紅白は、メンバーの区別のための抽象的な色なのだから、物理的の実体とは無関係な概念色に違いはない(だから、青と黄の<sup>注4</sup>ピンスで色分けし

ても紅白戦と呼ばれる。しかし、このあくまでも <sup>に</sup> の概念色は、小学校の赤白帽という特殊な被り物として実体化しているのである。同様に、お手洗いの赤と青のシンボルも、男女の区別を示す概念色が現実の物体色に現実化してデザイン化されたものだ。(5) もちろん、いったん赤白帽などが作られてしまえば、それは正真正正<sup>E</sup>ジョウメイの物体色である。しかし、これらは自然界にもとからあったのではなく、あくまでも <sup>は</sup> なのだから、その色は概念の区別のための概念色だということになる。

(伊藤浩介「ドレミファソラシは虹の七色? 知られざる「共感覚」の世界」による)

物体色なのか概念色なのか、よくわからなくなってくる。

<sup>e</sup> 物

注1 口絵10の今回の問題文においては口絵を省略している。

注2 ヘッドマウントディスプレイ<sup>注1</sup>頭部に装着する、映像を表示する装置。

注3 パーチャルリアリテイ<sup>注1</sup>まるで現実であるかの如く知覚するように仮想の空間を人工的に作り出す技術。仮想現実。

注4 ピンス<sup>注1</sup>競技者がユニフォームの上から着る、チームの区別をつけるためのベスト状のもの。

問一 線部A-Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①-⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 31 ～ 35。

- A ジョウジョ
- チツジウを乱す行方。
  - ウイリスの蔓延をシヨウヨウする。
  - 害虫をクジヨウする。
  - ジョウワ運動による安全確認。
  - 紳士<sup>注1</sup>エルクジョウの皆様。
- B シウウソク
- シウウバツな作品。
  - シウウトウな準備。
  - 証拠物件のオウソク。
  - シウウアクな風貌。
  - 今後のキョシウウに迷う。

- C ケンジョウウ
- ジョウウシウ<sup>注1</sup>酌量の余地。
  - ジョウウキを逸したふるまい。
  - 空気をジョウウカする。
  - 商売がハンジョウウする。
  - 会話中にハンジョウウを入れる。
- D ビケン者
- 仕事にビジュウを置く。
  - ビキョウを採検する。
  - 罪状をビニンする。
  - ビキヤク的美感への傾倒。
  - ピンウ浅薄な知識。

- E ショウメイ
- メイカイな論旨。
  - コンメイを極めた状況。
  - メイガラ重視の商品選択。
  - 固く結ばれたメイユウ。
  - メイヅツ共に一流の人。

問二  
 に入る最も適当な言葉を、次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号は一度しか選ばれません)。解答番号は **38**、**39**、**40**。  
 ① しかし ② いったい ③ それにもかかわらず ④ とすると ⑤ もちろん ⑥ だからこそ

問三  
 に入る最も適当な言葉を、それぞれの①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は **44**、**45**。  
 ① 同一 ② 差異 ③ 具体 ④ 抽象 ⑤ 多様  
 ① 尋常 ② 定量 ③ 万能 ④ 無限 ⑤ 適量  
 ① 視覚 ② 能力 ③ 物体 ④ 環境 ⑤ 言語  
 ① 架空 ② 限定 ③ 現実 ④ 天賦 ⑤ 対照  
 ① 夾雑物 ② 想像物 ③ 実物 ④ 人造物 ⑤ 副産物

問四  
 次の一文が入る最も適当な箇所を、問題文中( ① )～( ⑤ )の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **46**。  
 緑色の音信号を音だと感じるのもさうだし、空の虹が七色に見えるのは、我々の知識として概念色がそのように見えさせているとも言える。

問五  
 線部Ⅰ「これら二種類の色はしばしば一致しない」とありますが、その具体例を示したものと**適当ではない**のを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **47**。  
 ① オレンジ色のボールペンで原稿に「朱を入れる」。  
 ② 静脈血は、図で示される時は「青色」で描かれることがあるが、実際は赤色である。  
 ③ 「バラ色」「セピア色」「灰色」などの色であらわされる青春。  
 ④ サックスブルーやピンク色の「ワイシャツ (= white shirt 白シャツ)」。  
 ⑤ 白い雪が降り積もった光景を「銀世界」と表現する。

問六  
 線部Ⅱ「概念色から物体色への逆投影がこれほど普遍的だ」とありますが、これについて説明した文として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **48**。  
 ① 物体色が現実には存在していても、それに左右されることなく、それらの物体色とは異なる概念色が確固として存在するものだ、ということ。  
 ② 概念色の形成に物体色が必ずしも必要でないことが証しているように、むしろ物体色の知覚は常に概念色によって制御されている、ということ。  
 ③ 物体色が無いものにも色を知覚してしまう例があることが証しているように、概念色の影響下にあつて実際には存在しない物体色が日常的に数々生み出されている、ということ。  
 ④ 物体色が概念色の影響で別の色として知覚されるのみならず、概念色が先にあつて後から物体色として実体化する事例もあり、概念色の及ぼす力は一般に大きい、ということ。  
 ⑤ 我々が知覚しているのが現実にある物体色なのか、概念色によって塗りかえられたものなのか、判断不能なものも多く、混乱させられるような事例が一般に多くある、ということ。

問七  
 問題文の内容と一致するものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **49**。  
 ① 視覚やその関連機能はきわめて精緻な構造を有しているため、私たちが視覚で捉える色と実際の色は同じである。  
 ② 私たちの脳の処理機能には、実際に色がなくても、色が存在しているかのように見せるはたらきがある。  
 ③ 二十四本や六十本の色鉛筆が存在するように、私たちの脳機能には無数の色を明確に区別できるはたらきがある。  
 ④ 目の見えない先天盲の人が色の相違を処理する脳の機能は、全く解明されていない。  
 ⑤ 虹が七色で表現されることに代表されるように、人間は七色以上の有彩色を知覚できない。

問八  
 【言葉問題】解答番号は **50**、**55**。  
 ア アーカは四字熟語です。解答番号は **50**、イが **51**、ウが **52**、エが **53**、オが **54**、カが **55**。  
 Ⅲ に入る最も適当な漢字を、それぞれの①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は **50**、**51**、**52**、**53**、**54**、**55**。

ア 牽 **50** 付会  
 ⑤ 協 ④ 境 ③ 凶 ② 強 ① 共  
 イ 唐無稽 **51**  
 ⑤ 口 ④ 公 ③ 広 ② 高 ① 荒

ウ 疑心暗 **52**  
 ⑤ 飢 ④ 奇 ③ 鬼 ② 忌 ① 危  
 エ 言令色 **53**  
 ⑤ 放 ④ 巧 ③ 空 ② 高 ① 甘

オ 鷓鴣 **54** 後  
 ⑤ 獸 ④ 鶴 ③ 人 ② 牛 ① 虎  
 カ 異越同 **55**  
 ⑤ 乘 ④ 舟 ③ 戦 ② 緑 ① 穴



選択問題

III 次の文章は江戸時代後期の歌人、木下幸文(木下幸文)一七七九年～一八二二年の記した、蟬についての文章です。これを読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 61 ～ 79。

日盛りに競へる蟬の声は、よにかしましく、かしらいたき心地して、にくきものうちにも入れつべし。ひくらは深山山辺のものにや、里わたりにはをさをさ聞こえず。ただ雨の名残り涼しき夕かけなど、もあはれに鳴く一種あり。これにやと思ひしを、山里辺に聞けば、こよなかりけり。また、みむむと鳴く蟬あり。ある山陰にすまひせほど聞きとなり。俊頼の朝臣の「つづくしよ」と詠まれしは、くつくつほうしにこそ。げに聞けば、こそ聞きなざるや。

京にありしほど、文月のつごもり、葉月のつたちばかりにや、友だちいざなひて礼にまうでたりしに、涼みの名残り、棧敷(たか)なごながらあるに昇りて、酒飲みなしてあそびけるに、杜のあたりは、ただこの蟬の声なりき。

まことや、一昨年の夏ばかり、ある所にて蟬といふ題にて書きたりしふみ。

土裂くばかり暑さひるま、書よむわざにも困はてて、眠りのすすめる折しも、友だちひとりふたりゆくりなく出でて来て、「いでや、何がしの禪師の坊こそ木立ち、造り水いとかしめて、蓮も盛りなりと聞くと、いざ給へ」とそそのかされて行きぬ。あるはなきほどなりけり。池につくりかけたる釣殿めく様に登りて、「あなすずし。かく夏しらぬ極楽世界もありけるを」とて、衣脱ぎぢらしなど、かたみにうちみだれたるさまをかし。

さるほどに、小法師の茶・くだものなど持ち出でたるが、近き木に鳴きたる蟬を、つと及びかかてとらへたれば、「あなうたて、法師はもの命なすくことをこそすれ、さるさかきわざするものは」と言へば、「いな、何事か。手留の草紙ひきはなち、袋にもし侍りて、昨日今日に四五十もや取り侍りつらん。明後日ばかりには百はものにも侍らす」と言ふに、あさましくなりて、「あはれ今におそろしき報い見んずる小法師にこそ。かしの梢に声あやしくて鳴く蟬の名をば何とか言ふ」と言へば、「かれはくつくつほうしなり」と言ふ。「しか名付きたるゆゑをば知るや」と言へば、答へはせて、かしらうちふるめり。「いで、さは、われ説教者となりて、説き聞かせてん。

いまはむかし、宇多のみかと申す、いまそがりけり。そのおほん代に、兼芸法師といへる歌よみのひじりありけり。年いたく老いて、いとあやしげなるを見て、女どものくつくつとわらひたりければ、法師とりあへず、

かたちこそ深山(みやま)山がくれの朽ち木なれば花になさばなりなん

とぞ言ひける。さばかりのひじりなれば、わらひたるをにくむ執深き心は侍らざりけれど、さるひじりをわらひたる報いによりて、その女どもはかかる虫と生まれ出でて、汝のごときえせもの手に寄られ侍るなり。人をわらへる報いすら然り。もの殺せる法師の後の世こそ思ひやるにも過ぎては侍れ。くつくつほうしの宿世語り、まづかくなん(西宮)とをかしさをねんじて言ひつづければ、人びとえたとへず、くつくつとわらひぬ。

(「亮々草紙」による)

注1 糺 今の京都市左京区の下鴨神社の境内の森。

注2 宇多のみかと 宇多天皇。八八七年から八九七年まで在位。

注3 兼芸法師 陽成・光孝・宇多天皇時代(八七六年～八九七年)の人。「かたちこそ」の和歌は『古今集』所収。

注4 宿世語り 前世からの因縁話。

問一 〳〵線部ア「さながら」、イ「ゆくりなく」、ウ「かたみに」、エ「あさましくなりて」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 61 ～ 64。

- ア 「さながら」
- ① そうはいっても
  - ② すべて
  - ③ そのまま
  - ④ 造りかけで
  - ⑤ 昔から

- イ 「ゆくりなく」
- ① 思いがけず
  - ② あてもなく
  - ③ 示し合わせて
  - ④ 大騒ぎで
  - ⑤ 軽率に

- ウ 「かたみに」
- ① 堅苦しく
  - ② 片肌見せて
  - ③ 部分的に
  - ④ 大げさに
  - ⑤ 互いに

- エ 「あさましくなりて」
- ① みずばらしくなって
  - ② 欲深くなって
  - ③ 無関心になって
  - ④ 感心して
  - ⑤ あきれ果てて

問二 〳〵線部1「にくきものうちにも入れつべし」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 65。

- ① 心ひかれるものとして聞きたいものである
- ② 聞き分けにくいものと言つてよいだろう
- ③ 不快なもの一つに数えてもよいに違いない
- ④ うらやましく思われるもの一つである
- ⑤ 嫌なものを袋の中に閉じ込めてしまいたい

問三 〳〵線部2「をさをさ聞こえず」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 66。

- ① ほとんど声を聞かない
- ② はっきりとは聞こえない
- ③ どの場所でも聞こえない
- ④ いつもは声を聞かない
- ⑤ しいに聞こえない

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 語
数 学
生 物
化 学
国 語
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

問四 線部3について、以下の(1)、(2)の問いに答えなさい。なお、「俊頼の朝臣の「うつくしよし」と詠まれし」とは、源俊頼(一〇五五年頃―一二二九年以前)の和歌「女郎花なまめきたてるすがたをうつくしよしと蝉の鳴くらん」のことです。

(1) 「けにき聞けば、さぞ聞きなざるや」の「き」の指示するものとして最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は i が [67]、ii が [68]。  
 ① みむみむ ② くつくつ ③ をみなへし ④ ものあはれ ⑤ うつくしよし

(2) 源俊頼が編んだ勅撰和歌集として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は [69]。

- ① 万葉集 ② 山家集 ③ 新古今集 ④ 金葉集 ⑤ 古今集

問五 線部 a「この蟬」、b「かか虫」の指示するものとして最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は a が [70]、b が [71]。

- ① 友だち ② くつくつほうし ③ ひぐらし ④ みむみむとなく蟬 ⑤ 女ども

問六 線部4「さるさるがなきわざするものは」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は [72]。

- ① そのようなたちの悪いことをするべきでない
- ② そのように天命に反することをしてはいけない
- ③ それほど無慈悲なことができるわけではない
- ④ そのようにすげすげとものを言うものではない
- ⑤ そんな愚かなことをしたりはしない

問七 線部5「百はものにも侍らず」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は [73]。

- ① 百匹には遠く及ばない
- ② 百匹取ろうが無関係ない
- ③ 百匹では話にならない
- ④ 百匹くらいは簡単だ
- ⑤ 百匹以上は望めない

問八 線部 c「汝のごときえせもの」、d「人びと」は誰のことですか。最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は c が [74]、d が [75]。

- ① 説教者 ② 友だちひとりふたり ③ 小法師 ④ 兼芸法師 ⑤ 女ども

問九 線部6「をかしきをねんじて」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は [76]。

- ① 笑いたくなるのをこらえて
- ② 風情があることを期待して
- ③ 怪しげなところを心配して
- ④ 優れた趣きを心懸けて
- ⑤ 面白くなるように祈って

問十 線部甲「見んずる」の品詞分解として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は [77]。

- ① 見ん／ずる ② 見ん／ずる ③ 見んず／る ④ 見んず／る ⑤ 見んずる

問十一 線部乙と丙の「なん(なむ)」の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は乙が [78]、丙が [79]。

- ① 助動詞「ず」+助動詞「む」
- ② 終助詞
- ③ 助動詞「ぬ」+助動詞「む」
- ④ 係助詞
- ⑤ 係助詞

(国語問題 おわり)

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英語
数
生
物
化
学
国
語
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

D 国 語

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 1 ～ 23。

資質・能力こそは、つねに学び育ちつつある「力」として捉えられた「まるごと」の子どもそれぞれ自体である。  
 a 教育課程、なかでも各教科の授業の系列は、そのような学び育ちつつある「力」としての子ども、その学び育ち「力」をどのように引き出し増大させていくか、という問題意識を追求することになる。

(1) ここで再び学習指導要領やその解説から浮かび上がるのは、資質・能力と連動する「コンセプト」としての「主体的・対話的で深い学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)である。「競争・褒貶の相半ばする」この概念についての、歴史的背景を含めた詳細な検討はほかにゆずるとして(中略)、ここでは必要を限り説明を加えておこう。

このヒョウゴが主張される背景には、「教師の一方的な説明について子どもが黙々とノートを取り続ける」「どきどき教師の発問に児童生徒が答える。問一答式のやりとりを繰り返す」といって進んでいくような、「教師主導」の、「子どもが主体性や能動性を発揮できない受動的な従来型の授業」という改革、改善されるべき現状の想定がある。子ども(学習者)が「受け身」になってしまいうる現在の授業を、子どもが自ら対象に取り組み、他者と協働する、能動的で活動的な新しい授業に転換していくというのが、このヒョウゴの意図するところである。具体的には、書く、話す、発表するなど子どもが発信(外化)する活動、他者と協働しつつ自ら問題を発見しまた解決を探るような問題解決学習・探究型学習などが重視される。さらに触れたように探究型学習とは、教材などだけでなくフィールドワークや実験なども含んで、子どもが自ら掲げた問いに自律的に回答を与えていく学習の型である。そのような一連のプロセスのなかで子どもは、手持ちの知識や技能を用いて他者と協働しながら対象と関わり、その過程で資質・能力を増大させていくことになる。

(中略)

じつところわたしは、資質・能力に対して、「本来の教育から外れた教育」「ゆがめられた教育」「非教育的な教育」などとハイゲキするような、一般的な教育語りではしばしば生まれる否定の所作を繰り返すべきではないと思っている。  
 b わたしは、資質・能力やコンピテンシーが描く教育/学習論のことを、「真の教育」「純化された教育」とすら、呼んでもよいと思っている。――「個人の人生の成功」と「うまく機能する社会」に必要な人間像・能力観を定義し、それを子どもの発達のプロセスに落とし込む。そのプロセスにおいて、苦役でしかなかった「無意味」な暗記や単調な技能訓練(下リル学習)がそぎ落とされていく。そのプロセスをらせん状に通過する過程で、子どもは、本来の学び育ち力を解放され、むしろ、一つの学び育ち力そのものとなり、自己自身をますます高度化していく。学びの自己運動そのものとなる――それを教育が夢みてきた、真の教育、教育なるもの理想と呼ぶことに、わたしはしほはそれほと躊躇がない。

(2)

問題の第一は、社会の要請に c 応えようとしてあまりに純化・高度化した教育論は、子どもという存在、あるいは人間というものの可能性を、あまりに高度に想定しているということにある。

確かに人間は、また子どもは、生まれつき主体的に学び育ち力をもった、「能動的」で「有能」な学習者である。福垣佳世子(波多野利夫 九八九)。彼らは自律的に学ば存在であると同時に、学び方を学び、フタんに自己を調整していき存在(自己調整学習者)である。また「このような子どもも観は、「所定の知識や技能の習得ではなく、学習者がモノ、人、人を媒介とする活動を通して意味と関係を構成する学び」(佐藤学 一九九二)という考え方を中心に、教授・学習活動を考える、いわゆる構成主義的学習観と整合的である。それは、教科書に書かれた知識を子どもに伝達する――子どもは受動的に知識を獲得する――という伝統的な教育観を否定する。むしろ知識とその意味は、学習者がモノや他者と試行錯誤しつつ関わるなかで、学習者自身によって主体的に生み出される(構成される)ということになる。そしてその子どもは、モノや人を媒介としてつねに新しい知識を生み出し続け、また自己自身を絶えず d 化させ続ける。そのことによって、個人としての成功に加えてよりよい

社会に貢献する。これらすべては確かに、近代以降のいわゆる進歩的な教育思想に共通の理想であり、教育の制度や実践が目指してきた「夢」ですらある。

c そんな理想的な学び、あるいはその理想的な学びの連続としての育ちとは、あくまで、抽象化された理念上の人間が、理論的に推定された能力の最大値、ある種の「理論値」を発揮し続けているという想定のもとでのみ可能な事柄にすぎないのではないかと。現実の子どもはつねに予想外の中断や逸脱、後退を含んでいる。それは子どもの現実の生活が、つねに揺れ動き、揺蕩っているからにはかならない。しかし子どもの学び育ち力を最大限に肯定する資質・能力も、また社会を生かす上で「社会にとって有意義な教育課程も、そんな現実の子どもへの生の不確実性にパンクするには、あまりに高度かつ過大である。資質・能力としての子どもには、前進/向上/増大/高度化のみがあつて、後退/停滞/減少/以前にできなかったことができないということがない。誰も気づかなかつた問題を発見し、大量の情報を自由に駆使して、複雑高度な活動をやりこなし、困難にぶつかるや否や、誰も思ひもしなかつた「II オペレーション」をやつて、確実に成果を打ち立てる力であり、存在でもあるようなもの、それこそが資質・能力である。

(3)

もう少し実態に即して言い直そう。  
 新しい学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」、いわゆるアクティブ・ラーニングをネットワークにおいて授業を強調している。教師の教え込みを排し、子どもの主体性や協働性を尊重し、子どもの中に生きた知のネットワークが構成されること(深い学び)は、なるほど重要であり魅力的でもある。ただしこの指導要領の改訂に関わつて、文部科学省は一貫して「学習内容の削減は行わない」ことを強調してきた。この背景に、文部官僚の側で、「考える力」をうたつた「ゆとり教育」が被った厳しい批判のトラウマがあるであろうことは容易にうかがえる。そして実態教育内容は、削減しないどころかむしろ増えている。例えば、注4に触れたように二〇一八・二〇一九年度に小学校と中学校でそれぞれ「特別の教科 道徳」が完全実施となつたほか、二〇二〇年度からは小学校英語・外国語が教科化されている。その他、理数教育、言語能力の育成、伝統文

化の教育、主権者教育、消費者教育、そしてプログラミング教育など、教育/学習内容は増えこそすれ、減ることはない。明らかに教育は、質・量ともに増加・高度化・高密度化している。  
 結局、子どもにとめられているのは、これまで以上の学習内容を、単に丸暗記するのではなく意欲をもって活用すること、そのことによって力としての自分自身を確実に高度化していくことなのである。それはほとんど、「ゆとり」に e 呼ぶにふさわしい事態である。

(4)

そしてこのような教育課程の質・量の増加・高度化・高密度化を踏まえた時、資質・能力の強調は、表面的には希望にあふれた、しかしその内実は極めて f なるコンセプトのように思われる。なぜなら資質・能力論は、「子どもは学び育ち力が発揮されれば、理論上、そのような高度な生き抜くことは可能だ」と、そのように主張するものと考えるを得ないからである。理想的な子どもは理想的な学習活動を想定するならば、つまりは「理論値」で考えるならば、それはおそらく正しい。しかし、理論はきりぎりすばかりで回る教育課程を現実化しようとするか。実際には、高度に組織された教育課程は、子どもの学びをうたいながら、うまく学び得ない子どもを振り落としながら進む、巨大な選抜機械に変質していきかねない。それが g シリアになるのは発達障害を抱えているなど特別なニーズをもつ子どもたちだろうが、そうでなくとも、「一切の「行き戻り」が許されていない、高度かつ高密度の教育課程を流みなく弛みなく歩む」とは、子どもを生かすことそのもののハードルを高めてしまふのではないか。

(5)

ii 純化した理想の教育の中心としての資質・能力、それは、子どもの顔をしていない。  
 (補代佳世子「生存競争」教育への反抗による)

入試概要

総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英語 公募型学校推薦選抜

数学 公募型学校推薦選抜

生物 公募型学校推薦選抜

文化 公募型学校推薦選抜

国語 公募型学校推薦選抜

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

音楽実技

問一 線部A、Bの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は **1** ～ **5**。

A ヒョウゴ

B ハイゲキ

C フダシ

D バンソウ

E ネットウ

1 引越しに当たってジュウミンビョウを申請する。  
2 日本でもっともヒョウゴウの高い山は富士山だ。  
3 作者の感情がヒョウシユツされた作品だ。  
4 先週提出したレポートのヒョウシユツを受ける。  
5 あつけない結末に皆がヒョウシユツを受ける。

1 あの人は何冊も句集を出しているハイシンだ。  
2 度重なる内乱によってコウハイした国士。  
3 今日将棋の名人戦は、挑戦者のハイセキョクが濃厚だ。  
4 度重なる不祥事が原因でハイセキ運動が起こる。  
5 彼の行動はハイシン行為と言われても仕方がない。

1 ダンカイを踏んだ丁寧な説明がなされた。  
2 冬に合ったダンシヨクのコーデネット。  
3 国王の下したエイゲンが多くの人命を救った。  
4 今朝のニュースで不正なダンゴウが発覚した。  
5 想定外の事態にダンシヨウで立ち往生する。

1 略奪のようなバンゴウを認めてはいけない。  
2 好きな小説のバンガイ編を読み進める。  
3 要人警護のため外国までズイハンする。  
4 バンシヨウ織り合わせの上、ご出席ください。  
5 大雨が原因で起きた悲惨なラクバン事故。

1 ひと昔前のブームがサイネンしている。  
2 サッカーの試合で足首をネンザしてしまった。  
3 陶芸に向いたネンリヨクの強い土。  
4 ネンキが入った職人技を見せる。  
5 今度の仕事がうまくいくようネンズする。

問二 線部甲、乙の漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は **6** ～ **7**。

甲 所作 **6** (1) そき (2) つくれる (3) ところき (4) しょき (5) しょきく  
乙 苦役 **7** (1) くやく (2) ながやく (3) くえき (4) こき (5) くらう

問三 線部I「コンセプト」、II「毀誉褒貶」、III「イノベーション」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は **8** ～ **12**。

I 「コンセプト」  
1 作業過程  
2 基本構想  
3 自己決定  
4 抽象概念  
5 共通認識

II 「毀誉褒貶」  
1 成功と失敗  
2 歓喜と悲哀  
3 賛成と反対  
4 褒賞と懲罰  
5 称賛と非難

III 「イノベーション」  
1 独自の発想  
2 教育の再建  
3 技術の革新  
4 知識の転用  
5 思考の転換

問四 線部I「コンセプト」、II「毀誉褒貶」、III「イノベーション」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は **13** ～ **15**。

10 **a** **e** **d** **11** **e** **12** **a** **8** **b** **9** **e**

問五 線部甲、乙の漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は **16** ～ **20**。

い **16** **17** **18** **19** **20**  
ほ **16** **17** **18** **19** **20**

1 淡々と (1) 早急に (2) 懇々と (3) 得々と (4) 和やかに (5) 活発に  
2 愚直に (3) 大雑把に (4) 大胆に (5) かたくなに  
3 相対 (2) 骨抜き (3) 打ち消し (4) 詰込み (5) 形骸  
4 揺り戻し (2) 骨抜き (3) 打ち消し (4) 詰込み (5) 隠し立て  
5 陰湿 (2) 無駄 (3) 残酷 (4) 軽薄 (5) 単純

入試概要
総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英語
数
学
生
物
化
学
国
語
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語
音楽実技

問六 次の一文が入る最も適当な箇所を、問題文中(1)～(5)の中から一つ選び、マークしなさい。  
 解答番号は 21。

ただし、教育が教育として純化・高度化していくことと人間の幸福は別である、という点を指してならば、だが。

問七 ……線部「真の教育」「純化された教育」とありますが、筆者はどのような教育が該当すると考えていますか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 22。

- ① 「個人の人生の成功」と「うまく機能する社会」に必要な正しい人間像や能力観を、あらかじめ教師が決定しておくことによって、子どもたちがはっきりとした目的意識を持ち、本来持っている学力を十分に発揮できるような教育。
- ② 暗記や単調な技術訓練といった、目的意識がなまに取組んでいると無意味としか感じない学習についても、子どもたちが能動的に取り組みよう動機付けをしていくことによって、積極的な意義を与えていくような教育。
- ③ 教科書などの教材だけを学習の対象とするのではなく、フィールドワークや実験なども取り入れることによって、子どもたちが自らの知識に基づいて問いを生み出し、その問いに対して、教師が適切な回答を示していくような教育。
- ④ 教師から一方的に授業の内容を説明するのではなく、子どもたちが、能動的かつ活動的に授業に参加できるように促していくことによって、一人一人の子どもが、教師や周囲と距離を置いて、独力で問題解決に取り組めるような教育。
- ⑤ 子どもたちが受け身で授業に取り組むことにならないよう、書く、話す、発表するといった発信の機会を重視し、他者とも協働していくなかで、自らの力で問題を発見し、その問題の解決が成長につながっていくような教育。

問八 ……線部「純化した理想の教育の中心としての資質・能力、それは、子どもを顔をしていない」とは、どういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 23。

- ① 新しい学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」とされるアクティブ・ラーニングを中心に据えた授業を推進するなど、「見ると子どもの主体性や協調性を尊重した方針を打ち出しているが、実際のところは、本当に子どもにとって必要な内容を提供しようと考えていない」ということ。
- ② 新しい学習指導要領に基づいて新規に実施された「特別の教科 道徳」や、今後、教科化が予定されている小学校での英語教育、理数教育、プログラミング教育といった学習内容は、「うまく機能する社会」の形成には必要不可欠であるが、子どもの「個人の人生の成功」とは無縁であるということ。
- ③ 子どもの現実の生活は、つねに揺れ動き、揺蕩っているものである。いつでも「理論値」通りの能力を発揮し続けることが出来るとは限らないから、アクティブ・ラーニング等の新たな教育を推進するのは子どもの現実に即しておらず、従来の受動的な授業の継続が望まれるということ。
- ④ 学習者である子ども自身が、モノや他者と関わることで主体的に知識やその意味を生み出し、自身を成長させ、また社会の発展に貢献することは、理想的な教育の姿であると言つてよいのであるが、その理想に基づき新たな教育課程は子どもの負担を度外視している点で、現実と整合していないこと。
- ⑤ 資質・能力としての子どもは、つねに学習目標に向かって前進し続け、優れた問題発見能力や高度な情報処理能力を発揮し、確実な成果を打ち立てることを期待されているが、そのような能力は誰しもが持ち得るものではないので、ほとんどの子どもにとっては、現実的でない、益のない教育であるということ。

問九 次の文章は、中国の逸話を仮名文で記した「唐物語」中の一話です。これを読んで、後の問いに答えなさい。  
 解答番号は 24、45。

昔、後漢の世に、荀爽と言ふ人ありけり。心賢く、顔美しき娘を所持たりける。見目・心のたぐひなき **イ** にあらず、さへ才学並びて、せぬ様々無かりけり。これによりて、父母も、いつき、かしづくこと、限り無し。かかれば、高き申しき、さながら心を懸けて、想ろに挑み言はせける中に、隠瑜ときこゆる人、心に足れることありけん。この娘に **A** はせてけり。夫、ころざし深くて、またなきものに思ひけるも、まことにこわり深く見えけり。三年ばかりになりぬれば、月日の過ぐるまは、いとたくひなくのみ見て、様々に浅からず契りおきけることも、あまたびになりぬ。かかるほどに、この男、病に思ひのち、いくほどなくて、遂にはかなくなかぬ。女の気色、あるもあらぬ心して、悲しさのあまりにや、命も絶えぬと見えける。よそに見る人 **ロ**、いとほしたなきほどに覚えけり。月日は改まれば、別れの涙は乾く時無かりけり。父母、「いかにして、忘るる草の種をりてしが」と思へど、**甲** 叶ふも見えず。この時に、同上里に住みける郭突と言ふ人、世にとりて申しからず、時に用あられたり。この男、思ひのほかに、年ころ住みわたりける妻、はかなくなりて、嘆き、やうやうおこたるほどに、この女を、あはれいかでかと思ふに耐へぬ気色、色に出でぬ。これによりて、父母、煩ひな許してけり。この女、悲しと思ひて、様々にあまじきよしを想ろに言ひければ、「親の心に從はぬは、限り無罪とは知らずや、みづからの心にて、ふさはしからずは思ふことも、**乙** か親の本意をばたがふべき」など、なほ言ひけるに、昔の男よりも、生まれける父の言葉、おろかに覚ゆることわり、**丙** なまじひに出で立ちつつ、今の男のもとへゆくも、袖のしづく、乾く間も無かりけり。かかりけれど、男の家近くなりければ、色・かたちを改めて、喜びたる気色になりぬ。車より降りつつ、滑らかに歩み入りぬ。帳の前に、灯香かきたてて、うち居たる事柄・気色を見るに、うれしく覚ゆること、限り無し。また、物など見たる言葉につけても、恥づかしく、慎ましくのみ覚えて、たちまちに間近く寄るべき心地もせず。感せられて、やや久しくなるほど

に、鐘も打ち、鳥さへ鳴きぬれば、この女、何となくすべきと有り顔にもなして、身親しき女房一人二人を具して、端の妻戸のうちに入りぬ。  
 かくてのち、いたくうち泣きて、女房に語りて言はく、「我、昔の契りを思ふに、時の間も耐へ忍ぶべき心地せず。さりながら、父に背ける罪を恐れて、なまむひにここまでは来たれど、生きながら二人の人に契りをつらきことわり無ければ、今は限りの我が身とは知らずや」とて、

親にこそ背かぬ道に入りぬ **ハ** **古**き契りをいかで忘れん  
 「生きては一つ床の交はりに絶ゆること無く、死なばまた同じ家の塵にもなりなんと思ひしことは、**注2** 中有の旅の空までも覚えん。我もまた忘れぬや」と言ひ果れば、らうたさまなじりより、紅の涙流れ出づる気色、まことに匂ひことなる八重紅梅の春の朝の雨に萎れて、装ひ寂しさに通ひたり。かくてしばしばあり、身の有様を思ひ定めけん、指より血を出して、妻戸の上に書き言はく、「我が屍をば、隠瑜が墓の傍らに置け」と書き付くるに、人の気色のしければ、騒ぎて、果ての文字二、三をば書きしつ。みづからの帯を解きて、首を引きまといて、みづからはかなくなりぬ。  
 紅の涙にまがふ水釜の 末をだにこそ書きも流さぬ

しばしあれば、絶え入りぬ。女房、抱へて泣きをれ **ニ**、言ふかひなくて、明けぬれば、男、入り来て見るに、いかが覚えけん、しばしばかり、死に入りて、起きも上がらず。  
 我がさへや察れや死なん 契りけり人ゆゑ人の絶ゆる命に  
 時の人、泣き悲しみけり。この女は、額川の荀爽が娘、南陽の隠瑜が妻なり。今の夫は、太子師郭突と言ふ人なり。  
 (「唐物語」による)

注1 おろかに「言ふもおろかに」「言へばおろかに」の略で、言うまでもなくもろくもろく大切だという意味。  
 注2 中有「死んでから次の生を受けるまでの四十九日間。」

注3 太子師＝皇太子の師匠。

問一 イ 二 に入る助詞として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は

- 26. 二 が 27. 二 が 24. 甲 が 25. 乙 が 26. 丙 が

問二 甲 丙 に入る副詞として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は

- 30. 甲 が 28. 乙 が 29. 丙 が ① まげて ② さらに ③ いかで ④ もしや ⑤ いづれ

問三 線部の助動詞 a「けん」、b「られ」、c「られ」、d「べき」、e「べき」、f「けん」について述べた文として、

- ① aからfの中には連用形が二つある。 ② aからfの中には連体形が四つある。 ③ aからfの中には可能が二つ、受身が一つある。 ④ aからfの中には過去推量が一つ、受身が一つある。 ⑤ aからfの中には過去の伝聞・婉曲が一つ、当然が一つある。

問四 線部A「あはせてけり」、B「なほ言ひける」、C「懐ましくのみ覚え」、D「覚えん」、E「死に入り」の主語は誰ですか。最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい(同じ記号を何度選んでもかまいません)。解答番号は

- 32. Aが 33. Bが 34. Cが 35. Eが 36. Dが ① 荀爽 ② 荀爽が娘 ③ 隠瑜 ④ 郭突 ⑤ 女房

問五 線部ア～オの現代語訳として最も適当なものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は

- 37. ア「またなきもの」 38. ア「あるにもあらぬ心地」 39. ア「死に入り」 40. ア「死なばまた同じ塚の塵にもなりなん」 41. ア「悲しみのために流した涙の色と文字の色が区別できないこと」

- ① 再び死にそうになつてしまう人 ② この上もなく大事な人 ③ 他には聞いたことがない人 ④ またとない誠実な人

ウ「はしたなきほど」

- ① みつともないと非難したくなる様子 ② 中途半端な様子 ③ 見ていられないほど甚だしい様子 ④ 下品なほどの様子

エ「あるまじきよし」

- ① あつてはならないということ ② 生きていられないということ ③ あつたとは思えないということ ④ 生きてはいるはずがないということ

オ「匂ひことなる」

- ① あでやかさが他と異なっている ② あでやかさが特別である ③ 香りが他と異なっている ④ 香りが特別である

問六 線部1「忘るる草の種をりてしがな」の「忘るる草」は「忘れ草(忘草)」のことです。何かを忘れさせる草として、詩歌に取り上げられてきました。この場面での「忘るる草」の役割に最も近いものを詠んだ和歌を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は

- 42. ① 住吉と海人は言ふとも長居す人忘れ草生ふといふなり ② 忘れ草我が身に摘まんと思ひしは人の心に生ふるなりけり ③ 忘れ草何をか種と思ひしはつれなき人の心なりけり ④ 忘れ草種とらましをあふこといとく難きものと知りせば ⑤ なき人を忘れわびなば忘れ草多かる宿にやどりをぞする

問七 線部2「死なばまた同じ塚の塵にもなりなん」は、この話の古典の「後漢書」では、二字熟語で示されています。それを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は

- 43. ① 比翼 ② 連理 ③ 同穴 ④ 同塵 ⑤ 鴛鴦

問八 線部3「紅の涙にまがふ水茎」とはどういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は

- 44. ① 美しい女性が流す涙で目がかすんで文字がよくみえないこと。 ② 美しい女性が流す涙で文字がにじんでしまいくみえないこと。 ③ 悲しみのために流した涙の色と文字とが区別できないこと。 ④ 悲しみのために流した涙の色と文字の色が区別できないこと。 ⑤ 悲しみのために流した涙と女性の筆跡がどちらも美しいこと。

入試概要

総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英 公募型学校推薦選抜

語 公募型学校推薦選抜

数 公募型学校推薦選抜

学 公募型学校推薦選抜

生 公募型学校推薦選抜

物 公募型学校推薦選抜

化 公募型学校推薦選抜

学 公募型学校推薦選抜

国 公募型学校推薦選抜

語 公募型学校推薦選抜

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本語

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

音楽実技

問九 問題文の内容についての説明としてふさわしくないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。

解答番号は **45**。

- ① 親が娘を再婚させようとしたのは、夫と死別した悲しみから救い出すためだった。
- ② 新しい夫は、再婚したいと思うようになる前は、妻が死んだことを嘆き悲しんでいた。
- ③ 前の夫は、約二年の夫婦生活のうちに、あっけなく病死してしまった。
- ④ 新しい夫は、妻が前の夫を忘れられずに自死したので、愛する気持ちに失せてしまった。
- ⑤ 娘は、前の夫のことが忘れられなかったが、親の言葉に従って再婚した。

(国語問題 おわり)